

2019年度名古屋外国語大学授業評価アンケート結果総括

FD 委員会作業チーム委員長
高 梨 芳 郎

2019年度の授業評価アンケート調査は、名古屋外国語大学FD委員会のもとで、原則として学部、大学院、国際日本語教育インスティテュート（留学生別科）の全授業科目を対象にして実施された。実施期間は、学部は2019年12月18日（水）～2020年1月17日（金）、大学院は2019年12月16日（月）～2020年1月14日（火）で、国際日本語教育インスティテュート（留学生別科）は2019年12月9日（月）～2019年12月19日（木）であった。アンケート調査結果は集計され、各教員に結果が知らされ、評価結果について授業者からのアンケートを記述式で提出していただいた。本報告では、今後の授業改善に資する目的で、受講生による授業評価アンケート結果に、授業者からの回答結果も加えて、授業評価結果を総括するものである。なお、授業評価アンケートの項目内容については、「授業科目別評価結果」を参照いただきたい。

1. 学生への授業改善アンケート調査結果

(1) 回答結果の概要

本授業評価アンケートは、受講者総数 31,417 名（学部 30,772 名、大学院 43 名、国際日本語教育インスティテュート 602 名）を対象に実施し、回答総数は 27,905 件（学部 27,331 件、大学院 41 件、国際日本語教育インスティテュート 533 件）で、回収率（回答総数÷受講者総数）は 89%（学部 89%、大学院 95%、国際日本語教育インスティテュート 89%）であった。なお、2018年度の全授業についての回収率は 87%（学部 87%、大学院 98%、国際日本語教育インスティテュート 89%）であった。

(2) 個々の項目ごとの分析結果

① 授業満足度について

授業の満足度については、全授業で項目平均値は 4.3（5点法）（学部 4.3、大学院 4.8、国際日本語教育インスティテュート（留学生別科）4.3）であった。参考までに、2018年度での全授業での項目平均値は 4.3（5点法）（学部 4.3、大学院 4.9、国際日本語教育インスティテュート（留学生別科）4.3）であった。

学部については、外国語学部の学科ごとに見ても、英米語学科 4.4、フランス語学科 4.2、中国語学科 4.3、日本語学科 4.5、英語教育学科 4.6、世界教養学科 4.4 で、4 以上の高い満足度の数値であった。現代国際学部についても同様に、学科ごとに見ても、現代英語学科 4.4、グローバルビジネス学科 4.3、国際教養学科 4.4 で高い満足度を示す数値であった。世界共生学部世界共生学科も 4.3 で高い満足度であった。また、世界教養学部では、世界教養学科 4.3、国際日本学科 4.2 の高い満足度であった。科目系列等で見ても、ほぼ総て 4.0 以上の平均値で高い満足度であった。

一方、大学院については、全回答者数の約 80%（41 名中 32 名）が 5.0 の回答をして、

項目平均値は 4.8 の数値で、極めて高い満足度が示された。また、国際日本語教育インスティテュート (留学生別科)については、受講者数 602 名に対して回答数が 533 件で満足度の項目平均値は 4.3 で、「とてもそう思う」(5)と「ややそう思う」(4)はそれぞれ、約 50%、30%の割合であった。

②出席・受講態度・シラバスの活用について

これらの3項目は受講者が自分の出席状況・受講態度、シラバスの活用(登録前・履修中)について評価した結果である。これらの項目についての評価結果は、全授業の項目平均値はそれぞれ順に、4.3、4.3、3.4(いずれも5点法)(学部4.3、4.4、3.4、大学院4.9、4.8、4.3、国際日本語教育インスティテュート(留学生別科)4.1、4.4、4.1)であった。参考までに、2018年度での全授業で項目平均値はそれぞれ、4.3、4.3、3.4(いずれも5点法)(学部4.3、4.3、3.4、大学院4.1、4.6、3.6、国際日本語教育インスティテュート(留学生別科)4.2、4.5、4.3)で、おおむね同様の傾向がみられた。また、シラバスの活用は、国際日本語教育インスティテュート(留学生別科)を除けば、2019年度においても、出席や受講態度と比べれば低い回答傾向が見られた。

学部については、外国語学部では、学科ごとに見ると、出席、受講態度は4台(それぞれ、4.1~4.4、4.3~4.6の範囲)で、シラバス活用はほぼ総て3台(それぞれ3.2~4.0)であった。現代国際学部の各学科についても、外国語学部と同様で、出席、受講態度は4台(それぞれ、4.3~4.4、4.4~4.5の範囲)で、シラバス活用は3台(それぞれ、3.5~3.6の範囲)であった。世界共生学部においても同様で、出席、受講態度は4台(ともに4.3)で、シラバス活用は3台(3.3)であった。また、世界教養学部も同様で、出席、受講態度は4台(それぞれ4.3~4.4、4.1~4.5)で、シラバス活用は3台(3.3~3.4)であった。一方、科目系列等で見ても同様で、出席、受講態度はほぼ総て4台で、シラバス活用はほぼ総て3台であった。

大学院については、それぞれ、4.9、4.8、4.3の平均値で、シラバス活用についても4台の評価であった。国際日本語教育インスティテュート(留学生別科)についても、同様にそれぞれ、4.1、4.4、4.1の平均値で、出席、受講態度、シラバス活用とも4台の平均値であった。

③授業進度、説明のわかり易さ、授業時間(開始・終了)、熱意、私語への適切な処置、授業参加への配慮、授業レベルの適切性、授業への興味について

これらの8項目の評価結果については、項目平均値は全授業で4.2~4.6の範囲(学部4.2~4.6、大学院4.4~5.0、国際日本語教育インスティテュート(留学生別科)4.1~4.8)であった。これらの中で平均値が最も高いのは、共通して、教員の熱意(4.6~5.0)と授業時間(開始・終了)(4.6~4.8)などで、最も低いのは、大学院を別にすれば、授業レベルの適切性(4.1~4.2)と授業への興味(4.2~4.4)であった。参考までに、2018年度のこれらの項目平均値は、全授業で4.2~4.6の範囲(学部4.2~4.6、大学院4.6~5.0、国際日本語教育インスティテュート(留学生別科)4.2~4.8)であった。

学部についても、同様に、外国語学部の学科ごとに見ると、総て4台(各項目平均値の範囲は省略)であった。また、現代国際学部の学科については、3学科とも総ての項目で4台であった。世界共生学部、世界教養学部も同様であった。科目系列等で見ても、4.0以上の平均値の科目群がほとんどで、ほぼ高い評価結果であった。

大学院については、それぞれ、4.4～5.0の平均値で、8項目すべてについて極めて高い評価結果となっている。国際日本語教育インスティテュート（留学生別科）についても、4.1～4.8の平均値で、同様に、8項目すべてについて高い評価結果となっている。

2. 学生の授業改善アンケート調査結果に対する教員アンケート結果

受講生による授業評価結果について多くの方から記述式の回答をいただいた。ここでは、典型的な回答と判断できる記述内容についてごく一部を紹介する。

(1) 受講生からのアンケート結果の受け止め方

- ・各傾向が分かり、参考となる。
- ・学生の満足度、関心度が高いことが確認できた。
- ・良いと評価されている箇所については引き続き継続し、評価が低い箇所については改善すべき点を見直していきたい。

(2) 授業で解決すべき課題

- ・学習目標を適度なレベルで設定することを考えていきたい。
- ・グループ学習での資料作成や発表全体への時間を十分に確保してもらいたいという声が挙がっている。
- ・論理的な思考が苦手な受講者が多く、その思考方法を理解させるかが課題である。
- ・学習意欲の低い学生への対応が課題。

(3) 授業での工夫

- ・現在進行形の中国関係重要ニュースをタイミングよく取り上げて、背景解説から説き起こしており、概ね受講生の関心、好評を得ている。
- ・知識を様々な形でフィードバックするため、映像視聴やディスカッション、プレゼンテーションなど、いくつかの手法を組み合わせ、授業運営に努めている。
- ・基本と根拠をしっかりと示して、学生自身が考えて問題を解決できるように努めている。また、文章の個別添削は、授業に加えてMoodleでも指導するようにした。
- ・できるだけ身近で、興味を引くような内容の課題を出すようにしている。
- ・グループ発表の際には評価シート、フィードバック用紙を配り、学生間で評価する機会を設けた。ただ数字を並べるのではなく、評価の理由や改善点、良かった点などの率直な意見を交換し、自己表現の中にある言葉、評価の責任を自覚することも訓練した。

(4) FD への意見

- ・ Having collegiality amongst instructional staff is an important element in team building.

3. まとめ

学生による授業評価アンケート結果から、本学の授業評価は、大学全体、学部・大学院・国際日本語教育インスティテュート（留学生別科）のそれぞれの全授業、学部の各学科・科目系列の全授業で、いずれも良好な結果であると総括できる。受講生によるアンケート結果に対する先生方の真摯な回答結果に示されているように今後も適切な評価を含めた授業改善の取り組みを全学的に進めていきたいものである。

2019年度2期授業改善のためのアンケート調査－学科分析結果

組織名称	英米語学科	担当者	川原功司
------	-------	-----	------

1. 調査結果の概要

英米語学科に関連する調査結果は6つに分類されている。分類の内訳と各回答数及び回答率は以下のとおりである。

- 1) 英米語学科における以下2)～6)の授業評価結果の総計 (回答数 5,762 名、回答率 88%)
- 2) 専門ゼミナール (回答数 429 名、回答率 88%)
- 3) 専攻言語プログラム／専攻語学 (PUT を除く) (回答数 2,642 名、回答率 88%)
- 4) コース科目・学科提供プログラム、世界教養プログラム〔基盤〕 / 〔応用〕
(回答数 1,335 名、回答率 88%)
- 5) 学部共通英語基幹プログラム (PUT を除く) (回答数 1,017 名、回答率 92%)
- 6) PUT (回答数 339 名、回答率 83%)

上記分類から、特に英米語学科科目である2)と3)、および学科科目であるコース科目を含む4)を対象として項目ごとの分析をする。

2. 項目ごとの分析結果

◎ 専門ゼミナール

例年同様に全体的に高評価を得ている。ほとんどの項目においてほぼ全体平均と同じであった。しかし、授業に対する学生の満足度を表す「A-①この授業は全体として満足だった。」と「D-②この授業に大変興味を持てた。」の項目への評価は共に 4.5 点と平均でそれぞれ 0.2 点と 0.3 点上回っている。そして、6 割以上の回答者が最高評価の 5 を選択している。このことから、ゼミナールに対する学生の満足度が明白である。

一方で、全体平均値よりも低い評価となったのが、「B-①この授業には休まず出席していた。」の項目であり、平均が 4.0 点となっており、平均より 0.3 点低い。この評価は、ゼミナールが 4 年生での必修科目となっているため、1 期の就職活動による欠席が影響していると推測できる。

◎ 専攻言語プログラム

全体的にほとんどの項目において、大学全体の平均値と同等の結果となっている。シラバスの活用についての項目以外はすべて 4.1 点以上の平均値を得ている。「B-④この授業に関して予習、復習などを積極的に行った。」の項目では、全体平均値の 3.9 点よりも 0.2 点高い 4.1 点という昨年と同等の評価を得ている。この結果は、専攻言語習得のために授業外での学習を必須とするプログラムの主旨

に沿った結果であると解釈できる。

教員の熱意を問う項目、および授業参加への配慮を問う項目に対する回答では、共に 4.6 点と高評価を得ている。この評価から、教員の授業に対する熱心さと語学学習に必要な積極的授業参加の配慮について学生の満足度が見られる。4 年生を除き必修科目である点、および学科の全体数を考慮すると、毎年この平均値を維持しているのは、英米語学科における語学プログラムの成果および、教員の努力が大きく影響していると考えられる。

◎ コース科目／学科提供プログラム、世界教養プログラム〔基盤〕／〔応用〕

全体的には、ほとんどの項目において 4.3 点以上の評価を得ていることから、受講生が概ね好意的な評価をしていることがわかる。平均点より下の項目は「C-⑥学生が積極的に授業に参加できるよう配慮されていた。」の回答で、平均点より 0.1 点低かった。

3. 今後の授業改善に向けて

去年に引き続き、コース科目/学科提供科目に関して、より積極的な授業外学習と授業参加に向けて、学生の参加態度と講師の授業運営の双方から授業改善への取り組みを検討したい。学生に対しては、受講者数が多い講義式の授業科目に向けての取り組み方の示唆が必要である。受動的な態度で講義に出席するのではなく、授業内容を聴き取り、理解し、重要な部分を書き取り、授業外で復習し、さらには授業内容を発展させ各自で学習するという基本的な学習態度の重要性を促したい。授業の初回オリエンテーションや学科ガイダンスなどの機会を用いて学生へ周知し、認識を高める試みを検討したい。

見聞する限りの他大学と比べてみると、本学ではアンケートの結果が良好である。一方で、学生の大学の満足度自体は、それほど突出しているわけではない。リアルな現実の調査に関してはさらなる分析が必要だが、数字に出ている以上、肯定的に受け止めてもいいのかもしれない。総じて、本学には教育熱心な教員が集まっているようである。

また、教員コメントにも寄せられたが、教員同士での情報交換を持つ機会があるといいのかもしれない。本学の学生は真面目な学生が多く、「やりやすい」というコメントがよく見られたが、それだけに授業に対する集中力のない学生は目立つ存在にもなりうるようである。大学を挙げての取り組みで、無気力な学生をどこまで指導できるか、具体的に考えていく必要はあるかも知れない。そして、数字や数学、社会、理科の基礎知識がない学生が多いようであり、リメディアル教育でどこまで補えるか、入試科目数を増やすかといった可能性を学長会議室で議論していただきたく思う。

2019年度2期授業改善のためのアンケート調査－学科分析結果

組織名称	フランス語学科	担当者	武井 由紀
------	---------	-----	-------

1. 調査結果の概要

フランス語学科の全体的な集計結果について、四学部全体の集計結果と比べた場合、「全体平均」をやや下回る評価の値になっていることが、傾向として認められる。2018年度の集計結果では全体的に平均を上回る評価が多くを占めていたことを考慮すると、今回2019年度の結果としては、前年度よりも評価がやや消極的になったと読み取ることができる。

系列ごとに見た場合、PUTを含め、「専攻言語プログラム」の結果については、学科平均が全体平均と同じ、あるいはそれを上回る項目が確認できるものの、学科平均が全体平均をやや下回る項目もある。一方で、学科の「専門科目群・コース科目」の平均は、全体平均よりも総じて低く数値が出ている。ただし昨年度同様、この評価結果の分析・集計手法として、「専門科目群・コース科目」と同じ枠組みの中に、全学共通科目としての「世界教養プログラム」の評価も含まれた形で集計結果が出ているため、この数値がどの科目に反映されるものなのか、結果を正しく読み取ることは難しい。また、「専門ゼミナール」の学科平均は、「授業に大変興味を持てた」では全体平均と同値だったものの、それ以外は全体平均を下回る評価だった。以上から、今回、学科の全体的な集計結果が全体平均を下回る結果を示していることが少なからず説明できるのではないかと考えられる。

2. 項目ごとの分析結果

1. で述べたように、学科の全体的な評価が全学の全体平均よりも低い傾向が認められるため、その要因となりそうなものを探るため、いくつかの項目に着目したい。

例えば、「専攻言語プログラム」、「専門科目群・コース科目」、「専門ゼミナール」のみに着目すれば、「満足度」、「分かりやすさ」、「教員の熱意」、「興味が持てたかどうか」については、全体平均と同値か、0.1ポイント下回る数値を示していることが確認される。一方で、「授業の進み具合の適切さ」、「レベルの適切さ」については、全体平均よりも0.2ポイント低い結果を表していることが指摘できる。さらに、「授業の進み具合の適切さ」、「レベルの適切さ」のいずれについても、「そうは思わない」、「あまりそう

は思わない」場合の理由として、「授業の進み具合」については「早すぎる」、「少し早い」の割合が、また、「レベルの適切さ」については「高すぎる」、「少し高い」の割合が高いことが顕著に認められる。実は、「専攻言語プログラム」の「レベルの適切さ」については、前年度の回答結果においても、適切でないと判断した理由の76%が「高すぎる・少し高い」と回答している。教育的な観点から捉えれば、むしろやや高いレベルだと感じるくらいが学習意欲を高めるとも考えられるものの、今回の「授業の進み具合の適切さ」、「レベルの適切さ」についても、「早すぎる・少し早い」、「高すぎる・少し高い」との回答が多いのは、そのように回答した学生自身にとっては授業の進度とレベルが消極的に作用したと推測することもできそうである。

なお、2019年度の新カリキュラムにおいて、前年度までのカリキュラムと比べて違いが生じている科目群としては、アンケート回答率の高い1年生を対象とした「専門科目群」の「学科基盤」三科目が挙げられる。アンケート実施の2期にはその内の二科目（フランス学〔文学・思想〕、フランス学〔社会・経済〕）が開講されている。先述の通り、これらの科目についても、「専門科目群・コース科目」の枠組みの中で集計されているため評価結果を正確に読み取ることは難しいものの、来年度以降の評価結果を引き続き注視したい。

3. 今後の授業改善に向けて

2019年度の結果を総合的に評価すると、学科の評価としては、全学の全体平均よりも低い結果が示された。1. と2. の中でその要因を探ることを試みたものの、その断定は難しい。しかしながら、今回の結果を真摯に受け止め、2. で言及した具体的な点についても学科内で共有し、今後の改善に向けた建設的な議論に役立てたいと考えている。

2019年度2期授業改善のためのアンケート調査－学科分析結果

組織名称	中国語学科	担当者	船越達志
------	-------	-----	------

1. 調査結果の概要

今年度は、学科全体で見ると、1年次生（18生）回答数221、2年次生（17生）回答数310、3年次生（16生）回答数115、4年次生以上（15生以前）回答数59、不明222、合計931となっている。例年に比して、高学年の回答数が増えた。結果は概ね全学平均と同じ4点台であり、授業満足度は高いと言えよう。

2. 項目ごとの分析結果

主な質問項目について、授業科目群別の調査結果を以下に示す（括弧内の数字は昨年2018年度の数字）：

	A①満足度	C②分かり易さ	C④熱意	C⑥授業参加	D①レベル	D②興味
専攻言語・専攻語学	4.4(4.4)	4.4(4.5)	4.6(4.6)	4.5(4.5)	4.2(4.2)	4.3(4.3)
PUT（中国語PUT）	4.7(4.4)	4.6(4.5)	4.6(4.5)	4.8(4.5)	4.7(4.2)	4.7(4.5)
コース科目（世界教養プログラム基盤含む）	4.2(4.1)	4.3(4.2)	4.6(4.4)	4.2(4.0)	4.0(4.1)	4.2(4.2)
ゼミ	4.4(4.3)	4.5(4.4)	4.7(4.5)	4.5(4.3)	4.2(4.3)	4.4(4.2)
1年英語	4.3(4.3)	4.4(4.3)	4.7(4.6)	4.3(4.5)	3.9(4.0)	4.1(4.1)
2年英語	4.1(4.0)	4.3(4.0)	4.3(4.2)	4.0(4.2)	4.0(4.0)	4.0(3.8)
全体平均	4.3(4.2)	4.4(4.3)	4.6(4.5)	4.4(4.3)	4.1(4.1)	4.2(4.2)

以下、上の表に基づき、分析をしていく。

まず、「専攻言語プログラム（専攻語学）」であるが、回答数は1年（18生）102、2年（17生）104、3年（16生）37、4年以上（15生以前）37、不明66（合計317）となっている。1、2年生に比して3、4年の回答数が少ないのは例年のことであるが、それでも今年は例年に比べれば回答数が多かった（昨年度は、3年生以上の回答数は13名のみであった）。3、4年の専攻語学の授業実態を、ある程度は反映していると考え

ことができよう。上表に掲げたほとんどの項目で、昨年と横ばいの結果となった。昨年はすべての項目で、一昨年よりポイントが上昇し、昨年の分析の際には「今年の 1, 2 年生は例年に比して真面目な学生が多く、大変順調に授業運営ができた」と記述したが、その状態が、その後も継続していると言える。「授業のレベル (D-①)」に関しては「少し高い」と答えた学生が 10 名いる。これは「授業の進み具合 (C-①)」において、「少し早い」と答えた学生が 9 名いることと呼応している。全体的に「やや難しい (速度もやや早い)」と感じている学生が、一定数いることが窺える。元々学生間のレベルに差があるため (例えばほとんどの学生が入学後に中国語学習を開始するが、中には入学前からネイティブ並みに話せる学生もいる)、全ての学生に程よい難易度で授業を運営することは不可能である。

次に「PUT」であるが、回答数の内訳を見ると、2 年 PUT のみの回答 (しかも 19 名のみ) となっている。即ちこの数字は 2 年 PUT に対する評価であると理解できる。表に掲げた全ての項目で、数値が上昇した。「満足であった (A-①)」、「興味を持てた (D-②)」はいずれも 4.7 と極めて高い数値になっており、満足度が高いことが窺える。「授業に参加できるよう配慮されていた (C-⑥)」は 4.8 であり、「PUT」の特性でもある「積極的に会話をする機会」が、とりわけ充実していたことがわかる。

次に「コース科目/世界教養プログラム」である。昨年も記述したことなのだが、集計された数値は「世界教養プログラム」の回答と混在したものとなっているため、「中国語学科コース科目」のみに対する正確な数値が把握できない。今後、統計の方法を改善していただければ幸いである。結果は、ほぼ例年並みであるが、いずれも昨年より若干上昇している。「教員の熱意 (C-④)」は、昨年の 4.4 から 4.6 に上昇した。これは好ましい結果である。また、「授業のレベル」に関して、「少し高い」が 6 名、「高すぎる」が 3 名いる。一方、「少し低い」は 1 名のみ、「低すぎる」は 0 で、学生は講義科目に苦戦している様子が窺える。

「ゼミ」は、多くの項目で昨年より上昇した。昨年も「かなり上昇した」と分析したところなので、よい傾向が継続していると言える。例年より回答数が多いので (16 生 31 名、15 生以前 22 名。計 62 名)、今回の数値結果は信頼できるものと考えられる。中でも「分かり易さ (C-②)」、「授業参加 (C-⑥)」はいずれも 4.5、「教員の熱意 (C-④)」は 4.7 と高い数値が出ている。教員の熱意が学生に伝わっていると言えよう。これらは全学の平均を上回っている。

「英語」科目に関しては、中国語学科では分析のしようがないので、ここでは述べない。

3. 今後の授業改善に向けて

概ね昨年度より数値が上昇した。また学科全体の平均値は、全学の平均とほぼ同じで

ある。「授業のレベル」については、「少し高い」と考えている学生が一定数（26名）いる。これは「授業の進み具合」に対して、「やや早い」と考えている学生が21名いる点とも呼応している。今後の課題であろう。

2019年度2期授業改善のためのアンケート調査－学科分析結果

組織名称	外国語学部日本語学科	担当者	中北美千子
------	------------	-----	-------

1. 調査結果の概要

アンケートは2019年12月から2020年1月にかけて外国語学部を対象に実施された。全体の受講者数は812名、うち714名が回答し、回答率は88%であった。

2. 項目ごとの分析結果

本アンケートの主な質問項目を、①日本語学科生の授業への満足度、評価等と、②学習態度に関する評価等に分けて以下に分析する。

① 日本語学科生の授業の満足度、評価の平均

日本語学科全体として、多くの科目群において、外国語学部全体の平均をやや上回る結果となった(表1参照)。外国語学部全体の平均と比較し、数値が高かったものをグレーのハイライト、低かったものを下線で示してある。

科目群ごとに分けて分析したところ、「専門ゼミナール」と「専攻言語プログラム [PUTを除く]」においては、表1に取り上げた6つの質問項目全てにおいて、学部全体の平均を上回っていることがわかった。

「専攻言語プログラム [PUT]」と「複言語プログラム」においても「D①授業のレベルは自分にとって適切であった」以外のすべての項目で学部平均を上回った。「D①授業のレベルは自分にとって適切であった」について、「専攻言語プログラム [PUT]」では回答者8名のうち3名が「とてもそう思う」と解答しているのに対し、「ややそう思う」が3名、「普通」が2名で、「そうは思わない」「あまりそう思わない」という解答はなかった。一方、「D①授業のレベルは自分にとって適切であった」について、「複言語プログラム」では、回答者118名のうち、「とてもそう思う」60名、「ややそう思う」26名、「普通」24名、「あまりそう思わない」6名、「そうは思わない」1名、未回答1名であった。「あまりそう思わない・相は思わない」の内訳は「高すぎる」1名、「少し高い」5名、「少し低い」1名であった。

「コース科目」においては学部平均と同じかわずかに上下する項目が並び、この科目群全体としては学部平均と比較して特に目立った傾向は見られない。

表 1 日本語学科生の授業評価の平均

[5 そう思う, 4 ややそう思う, 3 普通, 2 あまりそう思わない, 1 そうは思わない]

	A①全体として満足であった	C②教員はわかりやすく説明していた	C④教員は熱意を持って取り組んでいた	C⑥学生が積極的に授業参加できるよう配慮されていた	D①レベルは自分にとって適切であった	D②大変興味を持てた
学部全体平均	4.3	4.4	4.6	4.4	4.2	4.2
専門ゼミナール	4.5	4.6	4.8	4.6	4.5	4.5
コース科目	4.4	4.3	4.7	4.4	4.0	4.2
専攻語学プログラム [PUTを除く]	4.5	4.6	4.8	4.6	4.4	4.5
専攻言語プログラム [PUT]	4.6	4.8	4.8	4.5	4.1	4.3
複言語プログラム 副専攻語学 [2年生以上]	4.5	4.6	4.8	4.6	4.2	4.4

② 学習態度に関する評価等

学習態度に関するアンケート項目では、以下に示すように、学部全体をやや下回る結果となった（表2参照）。「B③シラバスを活用した」の項目のみ学部平均を上回っているが、その差は0.1から0.3であり、意味のある差とは言えない可能性が高い。例年、日本語学科生はまじめに授業に出席し、真剣な態度で受講する傾向があるが、今回の調査では異なる結果となったことについて、学習内容に興味を持たず学習態度も熱意に欠けてしまったという憂慮すべき事態なのか、自分自身を批判的に見る力と「もっとできるはず」という向上心の反映なのか、注意して観察する必要がある。

表 2 日本語学科生の学習態度に関する評価の平均

[5 そう思う, 4 ややそう思う, 3 普通, 2 あまりそう思わない, 1 そうは思わない]

	B①休まず出席していた	B②真剣な態度で受講した	B③シラバスを活用した	B④予習・復習などを積極的に行った
学部全体平均	4.3	4.4	3.4	3.9
専門ゼミナール	4.2	4.3	3.7	3.9
コース科目	4.3	4.3	3.7	3.9
専攻語学プログラム [PUTを除く]	4.2	4.4	3.5	3.8
専攻言語プログラム [PUT]	4.0	4.6	3.5	3.6
複言語プログラム 副専攻語学[2年生以上]	4.5	4.4	3.5	4.1

3. 今後の授業改善に向けて

以上のアンケート結果から、日本語学科生は全体的に、授業について肯定的に捉えている割合が高いことがわかる。受講する授業の担当教員の熱意、積極的に学生を授業に参加させる工夫、興味の湧く授業展開などへの満足度が高い傾向は、本学科の多くの授業において、ペアワーク、グループワーク等の活動やプレゼンテーションの機会を多く設けていることの反映と言えるだろう。

ただし、「専攻言語プログラム [PUT]」と「複言語プログラム」という、日本語学科においてはどちらも英語科目となる科目群において他の項目と比較して「D①授業のレベルは自分にとって適切であった」の項目だけが目立って低い結果となり、英語科目においてすべての学生のレベルに合った授業展開をすることのむずかしさが、このアンケート結果に反映されている。

授業の満足度についての項目の平均値が高いにもかかわらず、学生自身の学習態度についての項目の平均値が低いことは、「十分に学習意欲が沸かなかった」という憂慮すべき事態である可能性と、逆に、自分自身を客観的に見てより高い目標を掲げるといふ向上心の反映である可能性とがある。学科では日頃から、欠席過多や成績不振などの不安要素のある学生については情報を共有し連携して対応に当たっているが、引き続き、油断なく丁寧に学生の様子を観察し、置き去りにになってしまう学生を出さないよう授業の工夫を重ねていく必要がある。

組織名称	英語教育学科	担当者	高橋直子
------	--------	-----	------

1. 調査結果の概要

まず、アンケートに対する学科の回収率が88%であったことから、授業改善のために学生の意見を把握することに対して、ある程度望ましい体制が取られていると判断できる。また、アンケートの各設問に対しての学科平均は、「この授業には、休まず出席していた。」と「この授業の登録前または履修中にシラバスを活用した。」という設問以外は、平均値がすべて4.5以上であった結果から、教員も学生もほぼ望ましい姿勢で授業に臨み、かつ学生の授業への満足度が高いということが読み取れる。特に平均値が高かったのは、教員の授業の取り組みに対しての設問である。学生から教員の授業への取り組み姿勢に対して高い評価を得られていることは大変喜ばしいことである。

2. 項目ごとの分析結果

学科全体を見ても、授業科目系列別に見ても、評価の平均が高い項目も平均が低い項目も平均値はほぼ同じである。評価の高い項目は「教員は授業に熱意を持って取り組んでいた。」という項目で、平均は4.8である。このデータから教員の授業への取り組み姿勢に対して学生がしっかり評価してくれていたことが結論付けられる。また、「この授業は全体として満足であった。」と「この授業の大変興味を持てた。」という設問において、授業に関する基本的評価が把握できるが、この両設問においては、4.6以上の平均を獲得でき、全体に学生の授業への満足度が高かったことが分かる。

また、授業科目系列別として注目すべきは 専攻言語プログラムに対する評価で、特に高い平均値が見られる。項目で挙げると、「この授業により、次の取り組みのいずれか1つ以上について積極的に行うようになった。・聞く・話す・読む・書く」「この授業を履修して、目標とされている外国語の能力（話す能力、書く能力、聴く能力、読む能力のいずれか、あるいはその組み合わせ）を伸ばすことができた。」の2項目で4.7の平均値を獲得している。また、教員の取り組みを表す「教員はわかりやすく説明していた。」「授業の開始時間、終了時間はきちんと守られていた。」「教員は授業に熱意を持って取り組んでいた。」「授業中の私語には適切な処置がとられていた。」「学生が積極的に授業に参加できるよう配慮されていた。」という5項目で4.7～4.8の平均値を得ている。このデータ結果から、外大が進めてきた外国語教育に対する高い評価が得られていることが理解できる。今後もより良いカリキュラムと授業体制が継続されることが望まれる。

一方で、学科全体の平均値が低かった項目は、「この授業の登録前または履修中にシラバスを活用した。」という設問で、平均は3.6であった。学期の開始時期だけでなく、学期全体を通したシラバスの活用を学生に促す必要がある。

3. 今後の授業改善に向けて

まず、上記で述べたように、「授業の履修中にシラバスを活用した。」というアンケートの質問の評価が低かった為、授業内でシラバスに立ち返る工夫が必要である。また、今後の授業改善に向けて、記述式の教員アンケートの中からいくつか重要と思われるものを以下に挙げる。

- ・ 生徒が聞いているだけにならないよう、意見等発言できる機会を作っていきたい。
- ・ 受講者数が多く、受講態度の悪い学生に対して、十分に目が届かない。専門科目でなく、興味が薄いと思われる受講者が多く見受けられ、いかに興味を持たせるかが課題であると考える。
- ・ 論理的な思考が苦手な受講者が多く、いかにその思考方法を理解させるかが課題である。
- ・ 不真面目な学生に対して、他の授業を担当する教員やクラスアドバイザーを通じて学生指導していただけるようなサポート体制を、もっと積極的に活用したい。
- ・ 学生が授業に対して積極的に取り組んでいることを自身で感じられる様、教員側からのコミュニケーションをもっと積極的に図り、学生の成果をほめ、自己評価の機会の数を増やしていきたい。また、学習目標を適度なレベルで設定していきたい。
- ・ アンケートの記述回答を見るとグループ学習での資料作成や発表全体への時間を十分に確保してもらいたいという声が挙がっている。学習目標をシンプルに立て、授業内容の質とスケジュールのバランスをよく計画していきたい。
- ・ 毎回の講義での内容理解を確認する課題を出していきたい。
- ・ 毎回授業の始めに、前回の授業の復習を行い、何が重要かを説明している。また、できるだけ実物を提示することにより、理解の向上を図るとともに、コンピュータだけではなく、デジタル社会における日常生活に必要な知識の説明にも重きを置いている。この体制を継続していきたい。
- ・ 書く練習は、読むこと、考えを体系化すること、表現の幅を広げることである。基本的な知識を身に付けた上で、学生間で自分たちが書いたものを評価し合い、内容に対する意見の交換の機会を積極的に設けた。教員だけの一方的な評価ばかりなく、学生同士のフィードバックを大いに活用すると良い。
- ・ 知識を様々な形でフィードバックするため、映像視聴やディスカッション、プレゼンテーションなど、いくつかの手法を組み合わせ、授業運営に努めている。また、各回の授業で必ず受講した感想を書いてもらい、学生たちが何を感じているのかを細かくチェックするようにしている。この授業運営を継続したい。
- ・ 毎回の授業の目標や、学生のレポートを紹介する意味など、場面に合わせて説明すべきである。
- ・ 日本と世界の時間の流れを同時に捉えていける授業の質的向上を目指したい。
- ・ 授業内のスライドの見せ方について工夫の余地がある。
- ・ 自由記述で「宿題が多すぎる」という回答があったことを受け、今年は学生との会話の中で宿題について学生がどう感じているかを探っていきたいと考えている。
- ・ 文法説明をもっと易しくするべきだと考える。
- ・ CDによるディクテーションを好む学生もあり、「実際の会話でコミュニケーションをはかりながらリスニング力を総合的につける」というやり方に対して詳しい説明が必要だった。
- ・ 平均より数値が低い項目、例えば進み具合が早すぎるという点に対する対策などについて再検討し、改善したい。
- ・ パワーポイントのコピーを配布している。映像、写真は旅行実務の仕事を通じて入手した資料など、現状のものを使用しているが、毎回新しい手法を考えていきたい。

- 留学生相手の授業は、学生の構成や興味が毎年変化するので、常住の教育手法では対応できないと考えている。
- Academic writing is an important part of learning in the Humanities (languages, history, arts etc.), but especially when writing in a foreign language, learners should also be encouraged to actively create products in the target language of the class which could be seen as more creative, or at least more personal, because sharing their own ideas is an important part of feeling like they belong. A challenge to this is that because there is a focus on academic writing through their assessment, many students do not particularly feel intrinsically motivated to use the language creatively and are really only there to obtain a required credit.
- In classes with a discussion emphasis, as opposed to a lecture format, student participation is a requirement. As a result, intrinsic student motivation is the key to effectiveness in both teaching and learning, and that is something that cannot be forced. Students should feel free to discuss their opinions both with, and in front of, other learners as well as both with, and in front of, the instructional staff. One possible technique would be to encourage students to find ways to use the topics covered in class as launch points to their own interests. Students need to think about their own interests and develop a growth mindset.
- In writing classes, teachers should show relationships between different forms of writing by introducing the concept of genre to learners. Students can be introduced to creative nonfiction as part of writing classwork. They will write about their own lives and their own culture in a way that people from other cultures can understand. They will also be researching a project that they will develop into an academic essay. Both speaking and writing are about communication and that whatever they can speak about, they can write about. Just like in speaking, in writing, there are different registers used for different topics, with academic essays being high in formality and other types of writing can be relatively low in formality. If students can write about things that are important to them as individuals, then intrinsic student motivation should increase.

2019年度2期授業改善のためのアンケート調査－学科分析結果

組織名称	世界教養学科	担当者	松山洋平
------	--------	-----	------

1. 調査結果の概要

いずれの系列の科目も、「とてもそう思う」と「ややそう思う」を選択した学生の割合が多く、授業に対する満足度が全体的に高いことがうかがえる。

複数の系列間、あるいは、学科と全体平均とのあいだに有意な数値差は認められない。アンケートからは、学科独自の問題点は見いだせず、それぞれの系列でバランスよく満足度の高い授業が提供されていると言える。

2. 項目ごとの分析結果

- 専攻言語（英語）に関連する科目において、「D-①-1 授業のレベルは、自分にとって適切であった」との質問に「そうは思わない」また「あまりそう思わない」と答えた受講生の内訳は、「高すぎる」4名、「少し高い」8名、「少し低い」9名、「低すぎる」1名である。学生によって、感じ方に差があるように見受けられる。ただし、全回答者数が700名を超えていることに鑑みれば、大きな問題とは言えない。
- その他、いずれの項目においても、大学全体の平均と有意な差は認められず、特筆すべき学科独自の問題点はない。

3. 今後の授業改善に向けて

- アンケートの結果から、世界教養学科の学生は、自らの学習態度についての評価も、教員の授業内容についての評価も高く、満足度の高い学習が行われていることがわかる。ただし、本アンケートの回収率は、他学科に比べてやや低い（85%）。アンケートの実施を学科科目担当の教員に呼びかけることで、より有意性のあるアンケート調査の実施を目指せる。
- 教員向けの記述式アンケートでは、学生向けのアンケートからは見えない個別的な課題もいくつか指摘されている。たとえば、「論理的思考力のない学生がいる」「数字に弱い学生が多い」「不真面目な学生が、クラスの四分の一程度に上る場合があり、対処が不可能である」、その他、教員間の指示系統や教育方針の調節方法に関する不満など。不真面目な学生に対しては、学科オリエンテーションや、学期中のアドバイザーによる指導の徹底により対処する必要がある。

2019年度2期授業改善のためのアンケート調査－学科分析結果

組織名称	グローバルビジネス学科	担当者	林、大浜
------	-------------	-----	------

1. 調査結果の概要

グローバルビジネス学科の学生による講義全体への評価は好意的に高く、その度合いは全学部での講義全体への評価と変わりがない。特に好意的な評価をしているのが PUT であり、殆どのアンケート項目において、とてもそう思う、の割合が8割を超えている。

全体的に、シラバスを参考にしている学生は半分程度。

2. 項目ごとの分析結果

(取り上げる項目は任意です)

ビジネス学科の専門基礎科目のアンケート結果で、授業レベルが高い、進み具合が早いと感じている学生が約2割いる。その他の専修科目では、授業レベルが高い、の割合が下がるため、大学の講義方式への慣れの問題なのか、基礎科目のレベル設定が高すぎるかのいずれかと判断している。その他の項目は (PUT を除いて) 同じ傾向があり、また全学部の傾向と変わらない。

3. 今後の授業改善に向けて

評価は例年通りであり、先生方が学生に迎合することなく、講義内容を理解させる努力をして頂いている。今後もお願いしたい。

してカリキュラム変更の案を策定している最中であるため、可能な限り、本アンケートの結果を反映したものにしていきたい。

2019年度2期授業改善のためのアンケート調査－学科分析結果

組織名称	現代英語学科	担当者	吉見かおる
------	--------	-----	-------

1. 調査結果の概要

現代英語学科におけるアンケートの結果を集約すると、例年と同じく、ほぼすべての項目において全体平均を上回る数値を表わしており、このことから学生の授業に対する満足度は全体として高い傾向にあると評価できる。その一方で、学生の科目別における学習意欲の差も読み取ることができる。それは、実践としての英語習得に対して非常に高いモチベーションがあるのに対し、英語を専門分野とする上で必須となる専門基礎科目（「ことばと音声Ⅰ、Ⅱ」、「ことばとしくみⅠ、Ⅱ」、「ことばと文化Ⅰ、Ⅱ」）の習得となると、昨年と同様、他の科目群と比べても低い数値を示す傾向が見受けられるということである。英語コミュニケーションに高い関心を示す学生に対し、専門分野であるアカデミックな学習がいかに重要であるかを学生自らが発見できるような授業展開、またあらゆる場面での動機付けの提供が、今後の学科の課題と考える。

2. 項目ごとの分析結果

最も評価の高かった科目名は「英語基幹プログラム (PuT)」であった（受講者数 94 名に対し回答数 66 名：回収率 87%）。

- ▶この授業は全体として満足であった。（現英 4.9、全体 4.3）
- ▶この授業には、休まず出席していた。（現英 4.6、全体 4.3）
- ▶この授業には、真剣な態度で受講した（現英 4.8、全体 4.4）
- ▶この授業に関して予習、復習などを積極的に行った。（現英 4.2、全体 3.9）
- ▶この授業により、次の取り組みのいずれか1つ以上について積極的に行うようになった。聞く・話す・読む・書く（現英 4.7、全体 4.2）
- ▶この授業に大変興味を持てた。（現英 4.8、全体 4.2）
- ▶この授業を履修して、目標とされている外国語の能力（話す能力、書く能力、聞く能力のいずれか、あるいはその組み合わせ）を伸ばすことができた。（現英 4.8、全体 4.3）

回答数、回収率はさほど高くはないため結果を一般化できるとはいいがたいが、毎年同様の数値が示されるため、学科の一特徴として見ることができる。

以下は、専門基礎科目の結果である（受講者数 339 名に対し回答数 303 名：回収率 89%）。

- ▶この授業は、全体として満足であった。（現英 4.1、全体 4.3）
- ▶この授業には、休まず出席していた。（現英 4.5、全体 4.3）

- ▶この授業には、真剣な態度で受講した（現英 4.4、全体 4.3）
- ▶この授業に関して予習、復習などを積極的に行った。（現英 3.9、全体 3.8）
- ▶この授業で指定された教科書、参考書等十分に活用した。（現英 4.2、全体 4.2）
- ▶この授業に大変興味を持てた。（現英 4.1、全体 4.2）

専門基礎科目はいずれも現代英語学科学生必須科目で、一年次から二年次にかけて順次開講されている科目群であり、合計 12 科目を習得しなければならない。言語習得において、「音声」、「しくみ」、「文化」の局面から体系的に理解を深める専門知識の基礎となるため、この科目群の重要性を一年次から訴えていく必要がある。

3. 今後の授業改善に向けて

現代英語学科の学びの特徴として、「英語力」「コミュニケーション力」は以下のようにキーワードとなっている。

<どんな人材を育成する学科か>

「英語力とコミュニケーション力を備えたグローバル人材を育成する」

<何を学び、身につける学科か>

「世界で活躍できる、グローバル基準の英語力を身につける」

「英語力と同じく、グローバル基準のコミュニケーション力を身につける」

そのためもあり、学生とのやり取りの中でこの用語を頻繁に耳にすることがあり、いかに学生が慣れ親しんで口にしているかがよく分かる。特にそれは、TESSII（前期語学学校、後期学部授業受講）留学を希望する学生が提出する希望書を読む際に感じるのだが、多くの学生は学部留学を希望する理由を、「英語力・コミュニケーション能力を高めるため」という文言で表現する傾向が見受けられる。もう一言具体的な記述、あるいは説得力のある理由が添えられていたら、現地での学びの意義をより見出せるのではないかと悔やむことがある。

そう考えると、英語力はもちろんのこと、その使い方を含めたコミュニケーション能力とは何かを考えていくことが重要となってくる。そのためには、英語学習を単なる言語学習としてとらえるのではなく、教養科目はもちろんのこと、専門基礎科目と並行したバランスの取れた学習の重要性を一年次から学生に伝えていく必要がある。

また、毎年夏季に一年生を対象とした「現代英語交流プロジェクト“QUEST”（アイルランド短期留学）」を実施しているが、今年はコロナの影響下でキャンセルになったため、これがきっかけで学生たちの英語習得、また留学に対するモチベーションが低下してしまうことのないように、学科として学生をケアしていくことも今後の課題である。

2019年度2期授業改善のためのアンケート調査－学科分析結果

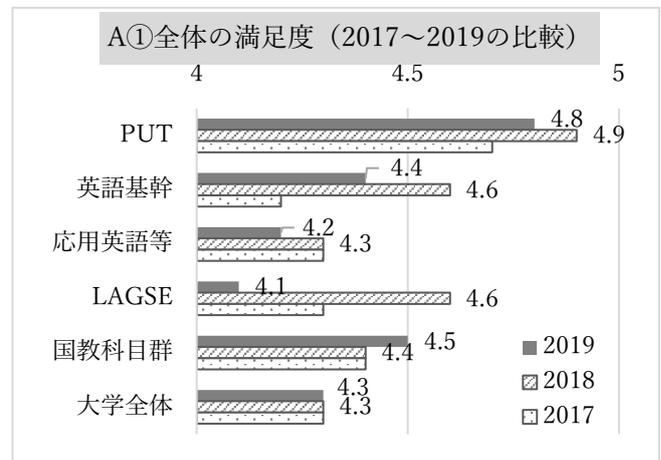
組織名称	国際教養学科	担当者	山本 恵
------	--------	-----	------

1. 調査結果の概要

右図A①は授業全体の満足度について過去2年間で比較したものである。2019年度は語学の系列すべてで昨年度を下回っている。

一方、国際教養科目群は例年よりも評価が上がり、授業改善の努力の成果が見られる。

学科全体のアンケート回収率は89%で、昨年度の91%よりも回収率が低い。調査結果から全体の傾向を捉えるにはさらに回収率を上げる必要がある。

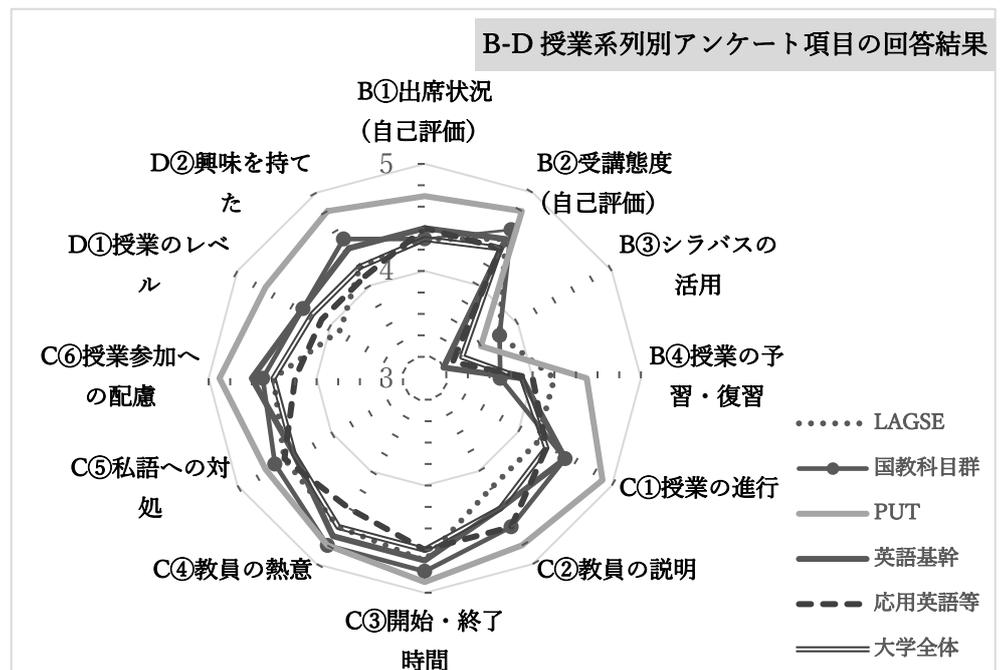


2. 項目ごとの分析結果

下図B-Dは、B①からD②までの各項目の回答結果を、授業系列別に示したものである。ほとんどの項目で、大学全体の平均を上回っているため、全体的には問題ないと言える。

ただし授業系列で見ると、「応用英語等」と「LAGSE」について、複数の項目で大学平均や他の授業系列を下回っている。前者で特に低いのは、「C⑥授業参加への配慮」や「C④教員の熱意」である。後者で低いのは「C②教員の説明」や「D①授業のレベル」である。回収率は94%と96%でかなり高く、一部の学生が極端に評価を下げているとは考えにくい。精査する必要がある。

また例年のことであるが、特に2019年度は「B③シラバスの活用」の評価が低い。シラバスの意味づけや入力時期を再考する必要がある。



※ 図中のアンケート質問項目および科目系列名は、内容を端的に示すことばに置き換えてある

3. 今後の授業改善に向けて

今回の調査では、語学系列が昨年度よりも全般に評価が低いこと、特に「応用英語等」と「LAGSE」で評価が下がったことが明らかになった。今後早急に原因を精査し、改善する必要がある。

以上

2019年度2期授業改善のためのアンケート調査－学科分析結果

組織名称	世界共生学科	担当者	宮川公平、近藤野里
------	--------	-----	-----------

1. 調査結果の概要

世界共生学科全体の質問回答集計表から、どの質問項目についても、大半の学生が「とてもそう思う」もしくは「ややそう思う」を選択している。全学の平均と比較した場合にも、平均値の違いは特にないと見える。B-③「この授業の登録前または履修中に、シラバスを活用した」という項目については、「普通」と回答した人の割合が高いことから、シラバスの活用の仕方が学生および教員の間で共有されていないということがうかがえる。

2. 項目ごとの分析結果

① 英語基幹プログラム

どの質問項目についてもほとんどの学生が「とてもそう思う」もしくは「ややそう思う」を選択している。C-②「教員はわかりやすく説明していた」、C-③「授業の開始時間、終了時間はきちんと守られていた」、C-④「教員は授業に熱意をもって取り組んでいた」については「とてもそう思う」を選択した学生が多いことから、教員の指導に対する学生の評価が非常に高いといえる。

② PUT

A-①「この授業は、全体として満足であった」、B-①「この授業には、休まずに出席していた」、B-②「この授業には、真剣な態度で受講した」、B-⑥「この授業により、次の取り組みのいずれか1つ以上について積極的に行うようになった」といった項目では、「とてもそう思う」もしくは「ややそう思う」の選択数が多いことから、学生が授業の内容に興味を持ち、真剣に授業に取り組んだことがうかがえる。また、教員の説明、授業の開始・終了時間、教員の授業への熱意、私語への適切な処置、学生の授業への積極的参加など、授業内容および教員の努力に対する学生の評価が非常に高いといえる。

③ 専攻言語プログラム

B-④「この授業に関して予習、復習などを積極的に行った」という項目では、全学平均と比較しても高い数値である。B-⑥「この授業により、次の取り組みのいずれか1つ以上について積極的に行うようになった」といった項目では、「とてもそう思う」もしくは「ややそう思う」の選択数が多いことから、学生が授業の内容に興味を持ち、真剣に授業に取り組んだことがうかがえる。教員の説明、授業の開始・終了時間、教員の授業への熱意、私語への適切な処置、学生の授業への積極的参加など、授業内容および教員の努力に対する学生の評価は、全学平均と比較すると高いことがうかがえる。

④ アカデミックスキルズプログラム

D-①「授業のレベルは、自分にとって適切であった」という項目については、「普通」、「あまりそう思わない」、「そうは思わない」を選択した学生が一定数いたことから、授業内容が少々難しかったことが

うかがえる。その反面、B-①「この授業には、休まずに出席していた」、B-②「この授業には、真剣な態度で受講した」、B-④「この授業に関して予習、復習などを積極的に行った」といった項目から、学生がこの授業を重要だと考え、授業の予習・復習に取り組んだと解釈することができる。他方で、C-④「教員は授業に熱意をもって取り組んでいた」については「とてもそう思う」を選択した学生が多いことから、教員の指導についての学生の評価が比較的高いこともうかがえる。

⑤リージョナルスタディーズ

A-①「この授業は、全体として満足であった」、B-②「この授業には、真剣な態度で受講した」、B-④「この授業に関して予習、復習などを積極的に行った」、といった項目では、「とてもそう思う」もしくは「ややそう思う」の選択数が多いことから、学生が授業の内容に興味を持ち、真剣に授業に取り組んだことがうかがえる。また、教員の説明、授業の開始・終了時間、教員の授業への熱意、私語への適切な処置、学生の授業への積極的参加など、授業内容および教員の努力に対する学生の評価も高いといえる。

⑥コース科目／グローバルメディア科目

A-①「この授業は、全体として満足であった」、B-②「この授業には、真剣な態度で受講した」B-④「この授業に関して予習、復習などを積極的に行った」、といった項目について学科平均が全体平均値よりも低いことが明らかである。また、C-②「教員はわかり易く説明していた」、C-③「授業の開始時間、終了時間はきちんと守られていた」、「学生が授業に参加できるように配慮されていた」といった項目についても、学科平均は全体平均値よりも低い。本学科のこの科目群の授業は講義形式の授業がほとんどであり、演習系の授業が少ないこと、授業内容の専門性も高いために「難しい」という感想を持ちやすいことが、このような評価の理由であることが考えられる。改善点としては、教員側の工夫として予習・復習などの内容を充実させ、課題に対するフィードバックやディスカッションの機会を増やし、学生が授業の中で積極的に発言できる仕組みを作ることが挙げられる。

3. 今後の授業改善に向けて

特にコース科目／グローバルメディア科目について、この科目群の授業のほとんどが講義形式で行われているものの、今後は学生が予習復習を通して、積極的に授業に関心を持てる工夫をするとともに、授業内でも学生が参加できるような仕組みを取り入れていくことも必要と考えられる。

2019年度2期授業改善のためのアンケート調査－学科分析結果

組織名称	CLED	担当者	池内正幸
------	------	-----	------

対象：外国語学部、現代国際学部、世界共生学部 CE、LC、TTI

1. 調査結果の概要

B-③を除くすべての項目で、全体平均を超えているか、あるいは、同値である。評価としては、申し分ないと言って良いであろう。なお、これは、昨年度よりさらに良い結果となっている。但し、CE, LC, TTIの区別、また、方法、テキスト等が異なる学部の区別がなされていないので詳細が不明であるという点は昨年度、一昨年度と同様である。

2. 項目ごとの分析結果

全体平均を下回っているのは、B-③のみである。昨年度（2018年度評価、以下同様）は、C-②、D-①-1も全体平均以下であったが、今年度は同値になっている。また、A-①についても、その値が年次ごとに改善されていると判断される。

3. 今後の授業改善に向けて

LCについては、来年度以降、テキスト、授業内容、方法が変わる可能性があるので、それらの factorsをも考慮して、担当部署としかるべく検討を進めたい。

対象：英米語学科 CELP（除 PUT）

1. 調査結果の概要

昨年度と同様、1つの項目を除いて、全体平均を上回るか同値である。高く評価される。一昨年度も主要項目において全体平均とほぼ同値であった。

2. 項目ごとの分析結果

B-③のみ、全体平均を0.2下回っている。昨年度の0.1より大きくなっている。

（取り上げる項目は任意です）

3. 今後の授業改善に向けて

LCについては、来年度以降、テキスト、授業内容、方法が変わる可能性があるので、それらの factorsをも考慮して、担当部署としかるべく検討を進めたい。

対象：英米語学科 PUT

1. 調査結果の概要

1つの項目を除いて、全ての項目で全体平均を上回るかなり高い評価を得ている。例えば、A-①、C-①-1、C-⑥などは、4.8という高得点である。十分に評価される。

2. 項目ごとの分析結果

全体平均を下回っているのは、B-③ (0.1) だけであり、特に問題とはならないと思われる。
(取り上げる項目は任意です)

3. 今後の授業改善に向けて

特になし。

対象：フランス語学科 CELP (除 PUT)

1. 調査結果の概要

昨年と同様、全ての項目で全体平均を上回るか同値であり、全体として高い評価を得ている。

2. 項目ごとの分析結果

一昨年、昨年と同様、A-①、D-②など多くの主要項目でも高い評価を得ている。

3. 今後の授業改善に向けて

LCについては、来年度以降、テキスト、授業内容、方法が変わる可能性があるので、それらの factors をも考慮して、担当部署としかるべく検討を進めたい。

対象：フランス語学科 PLP (英語)

1. 調査結果の概要

昨年度は、1つの項目以外、全ての項目で全体平均を上回るか同値であった。一昨年度は、全ての項目で全体平均を下回っていたので、昨年度は著しい改善が見られた。今年度は、半数の項目で、全体平均を下回っている。また逆戻りした感がある。

2. 項目ごとの分析結果

特に、A-① (-0.3)、D-②(-0.1)などは問題である。

3. 今後の授業改善に向けて

新カリキュラムが始まっており、その結果・成果を合わせて考慮し、必要あれば対応を考えたい。

対象：中国語学科 CELP（除 PUT）

1. 調査結果の概要

D-②など、いくつかの項目で全体平均を下回っている。

2. 項目ごとの分析結果

A-①は、一昨年は全体平均を下回っていたが、昨年度、今年度は同値に上がっている。評価されるべきである。その他、今年度は、C-②が全体平均と同値に上がっている。

（取り上げる項目は任意です）

3. 今後の授業改善に向けて

LCについては、来年度以降、テキスト、授業内容、方法が変わる可能性があるので、それらの factors をも考慮して、担当部署としかるべく検討を進めたい。

対象：中国語学科 PLP（英語）

1. 調査結果の概要

一昨年度は多くの項目で全体平均を下回っており、昨年度はさらに悪化して、全体平均を上回るのは1項目のみとなり、それ以外の項目全てで全体平均を下回るといった結果であった。今年度も、全体平均を上回ったのは1項目だけで、13項目で下回っている。

2. 項目ごとの分析結果

B-①のみ全体平均を上回る評価であった。A-①(-0.2)、D-②(-0.2)などは問題である。

（取り上げる項目は任意です）

3. 今後の授業改善に向けて

学生は受講に熱心であることは窺える (B-①)。新カリキュラムが始まっており、その結果・成果を合わせて考慮し、必要あれば対応を考えたい。長期傾向かとも思われるので、学科としての対応・対策も必要であるかもしれない。

対象：フランス語学科・中国語学科 PUT

1. 調査結果の概要

2つの項目を除き、主要項目を含めて全体平均を上回る高い評価である。了と判断される。

2. 項目ごとの分析結果

全体平均を下回ったのは、B-③、D-①-1の2つのみである。

(取り上げる項目は任意です)

3. 今後の授業改善に向けて

昨年度は、仏・中、別々の集計であったので、比較ができない。ただ、いずれにせよ、ほぼすべての項目で高評価であるので、問題はないと思われる。

対象：国際日本語学科 CELP (除 PUT)

1. 調査結果の概要

昨年は、B-④以外、全ての項目で全体平均を下回っており、一昨年より悪化していたが、今年度は、D-①-1以外、すべての項目で、全体平均を上回るか同値である。飛躍的な改善といって良いであろう。

2. 項目ごとの分析結果

昨年は、A-①が3点台であったが、今年度は、4.4と飛躍的に改善されているのが典型である。

(取り上げる項目は任意です)

3. 今後の授業改善に向けて

昨年度の評価では「何らかの改善が必要かと思われる。ただ、現状では、どの科目が問題なのか判別できない。」としていたが、今年度は見事に改善されている。ただ、どの科目が特に、と identify はできない。学科変更の効果が出たのかもしれないが、詳細は不明である。今後の検討に委ねたい。

対象：国際日本語学科 PUT

1. 調査結果の概要

2つの項目を除いて、主要項目を含む項目で全体平均を上回るか同値の高い評価を得ている。昨年度より改善のあとが見られる。

2. 項目ごとの分析結果

C-③、D-①-1の2項目のみ全体平均をわずか0.1下回っている。特に問題はないと思われる。

(取り上げる項目は任意です)

3. 今後の授業改善に向けて

特になし。

対象：日本語学科 PLP (英語)

1. 調査結果の概要

昨年度は、全体平均以上か同値の評価を得たのは、5項目のみであった。一昨年度は、主要項目を含め、全体平均とほぼ同等の数値が出ていたので、昨年度はやや悪化したということであった。これに対して、今年度は、ほぼすべての項目で全体平均を上回るといって著しい改善が見られた。特筆されるべきであろう。

2. 項目ごとの分析結果

15項目で全体平均を上回っている。

(取り上げる項目は任意です)

3. 今後の授業改善に向けて

この傾向が維持されることを期待する。

対象：世界教養学科 CELP（除 PUT）

1. 調査結果の概要

昨年度は、主要項目を含む 8 つの項目で全体平均以下の数値であり、一昨年度と同傾向であった。が、今年度は、主要項目を含むすべての項目で、全体平均を上回るか、同値、という驚異的な改善がなされている。

2. 項目ごとの分析結果

すべての項目で、全体平均を上回るか、同値である。

（取り上げる項目は任意です）

3. 今後の授業改善に向けて

昨年度の評価では、「何らかの手立てが必要であるかもしれない。ただ、現状では、どの科目が問題なのか判別できない。」としている。今年度は、著しい改善であり、高く評価される。が、その原因・理由が必ずしも定かではなく、今後の検討に委ねたいと思う。

対象：世界教養学科 PUT

1. 調査結果の概要

1つの項目を除いて、全体平均を上回る高いポイントを得ている。

2. 項目ごとの分析結果

全体平均を下回ったのは、B-③のみで特に問題はないと思われる。

（取り上げる項目は任意です）

3. 今後の授業改善に向けて

特になし。

2019年度2期授業改善のためのアンケート調査の結果

大学院 林良児

1.調査結果の概要

本学における教育・研究活動の改善・向上のためにFD委員会内規が定められたのは2001年2月のことである。この内規は2004年、2007年、2008年、2016年、2017年、2019年に改正されて今日にいたる。委員会は学長をはじめとする十一の組織の長等によって構成され、大学院からは研究科長及び授業担当者1名の計2名が委員として加わっている。委員会は五つの事項を審議する役割を担っているが、その一つが、FDの要ともいえるべき「授業・研究指導の内容・方法の改善のための研修・研究に関すること」である。その具体策が、授業改善のためのアンケート調査であり、大学院では2007年から実施されてきた。調査の対象は、正規生、研究生、科目等履修生及び特別聴講生を含めて4名以上の履修者がいる科目とし、集中講義科目と、英語教授法(TESOL)コースの英語教員ワークショップと重なる科目は対象外である。回答項目は、これまでと同様、マーク式回答項目と教員独自の設問による記述式回答項目に分かれる。マーク式回答項目では、5(とてもそう思う)、4(ややそう思う)、3(普通)、2(あまりそう思わない)、1(そうは思わない)の5段階評価を求めている。

2.項目ごとの分析結果

2019年度2期に調査対象となったのは、「グローバル共生研究」1科目、「中国語コミュニケーション」1科目、「日本文化研究」1科目、「日本語学研究」2科目、「日本語教育法研究」2科目、「国際関係研究」1科目の計8科目である。受講者は43名で、回答数は41、回収率は95%だった。

アンケート調査(マーク回答事項)の質問事項と全体の平均値は下記のとおりである。

- ① 授業に対する満足度(この授業は、全体として満足であった).....4.8
- ② 学生の自己評価
 - ・授業への出席(この授業には、まじめに出席していた).....4.9
 - ・授業への受講態度(この授業には、真剣な態度で受講した).....4.8
 - ・シラバスの活用(この授業の登録前または履修中にシラバスを活用した)...4.3
- ③ 授業に対する評価
 - ・進み具合(授業の進み具合は適切であった).....4.3
 - ・説明(教員の説明は分かり易かった).....4.9
 - ・時間厳守(授業の開始時間、終了時間はきちんと守られていた).....4.8
 - ・熱意(授業には熱意が感じられた).....5.0
 - ・私語の処置(授業中の私語には適切な処置がとられていた).....4.7
 - ・学生の参加(学生が積極的に授業に参加できるよう配慮されていた).....4.8
 - ・レベル(授業のレベルは、自分にとって適切であった).....4.4
 - ・興味(この授業に大変興味を持てた).....4.8

3.今後の授業改善に向けて

上記のとおり、今回の大学院科目の平均値はすべての項目において全体の平均を上回り、かなり高い結果となった。とくに、「授業の満足度」と「この授業に大変興味を持てた」の数値4.8は、授業計画が全体としてはおおむね適切ではあることを示唆している。ただし、教員の「説明」4.9や「熱意」の5.0の一方で、「授業の進み具合」4.3や「授業のレベル」4.4の評価が比較的低いこと、とりわけ、「授業レベル」については前回の4.6からさらに下がっているのをみると、教員と受講者の双方にとって、よりよい授業のための改善の余地がまだ残されているように思われる。なお、教員サイドから要望のあったアンケート項目の再検討の要望を受けて、今回から「予習・復習」と「教科書・参考書の活用」の2項目を削除し全12項目になっていることを付記する。

2019年度2期授業改善のためのアンケート調査－学科分析結果

組織名称	国際日本語教育インスティテュート (留学生別科)	担当者	櫻井省吾・Philip Rush・ 村上かおり
------	-----------------------------	-----	----------------------------

日本語科目について

1. 調査結果の概要

本調査結果報告は国際日本語教育インスティテュートが行っている日本語の授業に関するものだけを取り扱う (*ジャパNSTディーズ科目は含めないものとする)。

2018年度のアンケート調査結果と比較したところ、全17項目中、以下の3項目の平均点がそれぞれ0.1点上昇したに留まり、それ以外の項目はすべて同じ平均点という、概ね大差ない結果となった。

B-2 この授業には、真剣な態度で受講した (4.3→4.4)

B-4 この授業に関して予習、復習などを積極的に行った (3.8→3.9)

C-3 授業の開始時間、終了時間はきちんと守られていた (4.5→4.6)

上記の結果から、2018年度に引き続き授業の質を維持することができ、また、留学生が日本語学習に真面目に取り組んでいたと言える。

2. 項目ごとの分析結果

ここでは、特筆すべき項目だけを取りあげる。

D-①-1 授業のレベルは、自分にとって適切であった

D-①-2 そう思わない、あまりそう思わないの場合

「授業のレベルは、自分にとって適切であった」の項目では、2018年度と同じ平均点の4.2点であったが、「そう思わない、あまりそう思わないの場合」の内訳人数に大きな差が見られた。「低すぎる」と答えた学生が2018年度は5名だったのに対し、2019年度は12名であった。「少し低い」と答えた学生も2018年度は7名だったのに対し、2019年度は11名と増えた。

この内訳人数の増加は、学期開始当初の学生からのクレームから十分想像できる結果である。この結果に関しては2点の原因が考えられる。まず、これまでのIJLEの規模では、学生一人一人の要望を聞き、ある程度それに合わせたクラス分けが可能であったが、近年では留学生数が増大したことにより、一定のルールに従ってクラス分けをしないと、収集がつかなくなるという問題が発生した。そのため、

2019年度はプレースメントテストの結果のみで学生をクラス分けし、例え学生自身が自分のクラスのレベルが低いと感じても、テスト結果（数値）を見せ、よほどの理由がない限りはクラスレベルの変更を認めなかった。

考えられるもう1つの原因は、海外で使用されている教科書や求められているレベルが、IJLEのそれとはギャップがあるということだ。特に、欧米で使用されている日本語の教科書は、各文法項目をあまり深く掘り下げて教えていないため、授業では取り扱われていても、学生が実際にその文法項目を使いこなせるかどうかは別問題となる。ところが、IJLEで使用している教科書は各文法項目を詳しく教えているため、それに準拠したプレースメントテストでは、欧米の学生がなかなか点を取りにくい。そのため、学生は「すでに自国で勉強した」と思っているが、プレースメントテストでは点数がとれず、また、実際に使いこなせるまで実力がついていないというギャップがあるため、学生の評価が低かったと言えよう。

3. 今後の授業改善に向けて

上記の問題も踏まえ（また、その他の理由により）、IJLEでは今後の授業改善として2021年度秋学期（2期）より、教科書を欧米でよく使用されているものへと変更する予定である。これにより学生から一番大きな不満である、「授業のレベルは自分にとって、やや低い・低すぎる」という問題は、ある程度解消される見込みである。

その他の項目に関しては、2018年度と同じ平均点か、または上昇したものばかりであったことから、引き続き授業の質を維持できるよう教員間での協力体制に力を入れて行きたい。

ジャパNSTADIEES科目について

1. 調査結果の概要

There were 277 respondents (88% of participating students). Overall impressions of the JSC (Japan Studies Course) classes were encouragingly positive, with a high average satisfaction rate of 4.5 for the content and the organization of the classes offered.

受講生の88%に当たる277名から回答を得た。ジャパNSTADIEES科目の授業内容と構成について、平均4.5という高い満足度を示す回答があり、受講生が全体的に肯定的な印象を持ったことは、我々の励みとなるものである。

2. 項目ごとの分析結果

The statistics available do not show patterns for individual courses, but the low number of 2 and 1 assessments suggest that in general, the courses were popular and productive. The content was given high scores, suggesting that the materials given were of interest and useful to the participating students. Mid-range scores in some areas, such as appropriateness of language level and clarity of explanation may be due to the fact that several of the

participants were not English native speakers.

このデータからは科目ごとの詳細は不明であるが、2 または 1 という低い評定をした受講生が少なかったことは、科目群が概して評判がよく生産的なものであったことを示す。授業の内容は高い評定を得ており、これは使用された教材が受講生の興味を引く有益なものであったと言える。言語レベルの適切さ、説明の明確さ等の中程度の評定を得た項目については、幾人かの教員が英語母語話者ではなかったことに起因する可能性がある。

3. 今後の授業改善に向けて

The JSC program is constantly developing and adding new areas of content, and this should lead to increased student satisfaction with the program as a whole. Many comments were received through the survey. Most were positive, but there are some areas that need to be worked on, particularly with finding a level of English appropriate for a wide variety of nationalities, and improving instructor-student interaction. Many of the instructors on this program are non-native, and their great efforts to introduce and explain about Japan in English are very much appreciated. We hope that more Japanese staff will be interested in joining this program. In summary, the results of the survey were gratifying, and we will continue to build on this solid foundation.

ジャパNSTAディーズ・プログラムは常に発展し続け、新しい分野の科目を加えており、これがプログラム全体としての受講生の満足度を高めることにつながっていると考える。今回のアンケート調査では多くのコメントも得られた。多くはポジティブなものであるが、改善の取組みが必要な項目もある。特に、様々な国々からの留学生と日本人学生、すべての受講生にとって適切な英語のレベルを探ること、そして教員と受講生の間のインターアクションを更に活性化させることである。このプログラムの担当教員の多くが英語非母語話者であるにもかかわらず、英語を使用して日本について紹介、説明をする多大な尽力に感謝を表すものである。今後はより多くの日本人教員がこのプログラムに興味を持つことを期待したい。要約すると、このアンケート調査の結果を肯定的に受け止め、この強固な基礎の上に更なる発展を積み重ねたいと考える。

授業科目別評価結果

(教員コード) 教員名			
科目コード		曜日	
授業コード		講時	
授業科目名	全授業		

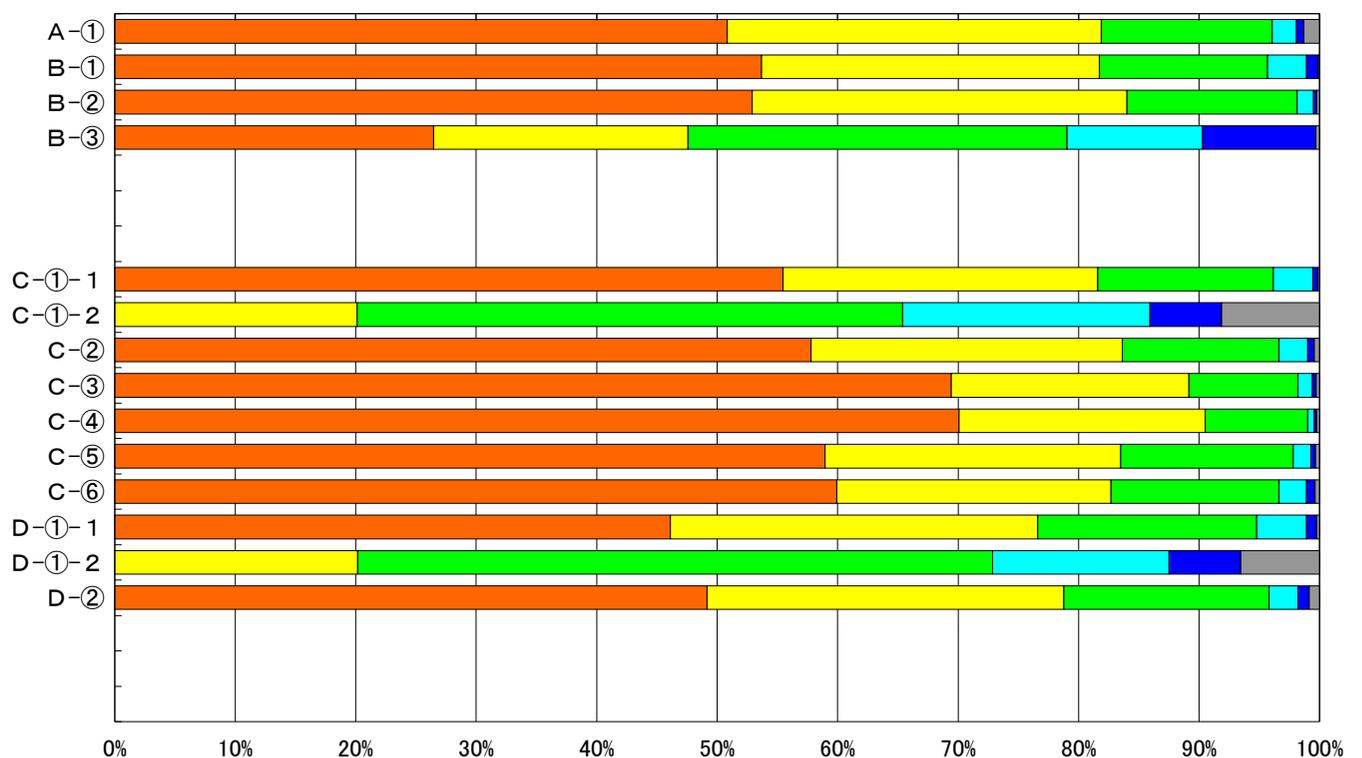
入学年度	回答数	受講者数	回収率
19生	9,413	---	---
18生	6,739	---	---
17生	3,751	---	---
16生以前	2,078	---	---
その他	349	---	---
不明	5,575	---	---
合計	27,905	31,417	89 %

質問別回答集計表(人数と平均値)

	5 とても 思う	4 やや 思う	3 普通	2 あまり 思わな	1 そうは 思わない	未答	平均	全体平均
A-① この授業は、全体として満足であった。	14188	8660	3959	563	174	361	4.3	4.3
B-① この授業には、休まず出席していた。	14981	7824	3894	909	269	28	4.3	4.3
B-② この授業には、真剣な態度で受講した。	14766	8681	3941	380	68	69	4.4	4.4
B-③ この授業の登録前または履修中に、シラバスを活用した。	7380	5894	8784	3136	2625	86	3.4	3.4
C-①-1 授業の進み具合は適切であった。	15474	7291	4074	909	114	43	4.3	4.3
C-①-2 そうは思わない、あまりそう思わないの場合		4 早すぎる 206	3 少し早い 463	2 少し遅い 210	1 遅すぎる 61	未答 83		
C-② 教員はわかり易く説明していた。	16125	7208	3631	664	153	124	4.4	4.4
C-③ 授業の開始時間、終了時間はきちんと守られていた。	19373	5506	2530	331	88	77	4.6	4.6
C-④ 教員は授業に熱意を持って取り組んでいた。	19558	5696	2374	159	49	69	4.6	4.6
C-⑤ 授業中の私語には適切な処置がとられていた。	16454	6846	3999	401	108	97	4.4	4.4
C-⑥ 学生が積極的に授業に参加できるよう配慮されていた。	16719	6353	3895	636	203	99	4.4	4.4
D-①-1 授業のレベルは、自分にとって適切であった。	12874	8503	5068	1162	231	67	4.2	4.2
D-①-2 そうは思わない、あまりそう思わないの場合		4 高すぎる 281	3 少し高い 734	2 少し低い 204	1 低すぎる 83	未答 91		
D-② この授業に大変興味を持てた。	13719	8260	4755	669	267	235	4.2	4.2
E-① 教員独自の設問								
E-② 教員独自の設問								
E-③ 教員独自の設問								
E-④ 教員独自の設問								
E-⑤ 教員独自の設問								

〈評価帯グラフ〉

■とてもそう思う(5) ■ややそう思う(4) ■普通(3) ■あまりそう思わない(2) ■そうは思わない(1) ■未答



授業科目別評価結果

(教員コード) 教員名			
科目コード		曜日	
授業コード		講時	
授業科目名	全授業(学部)		

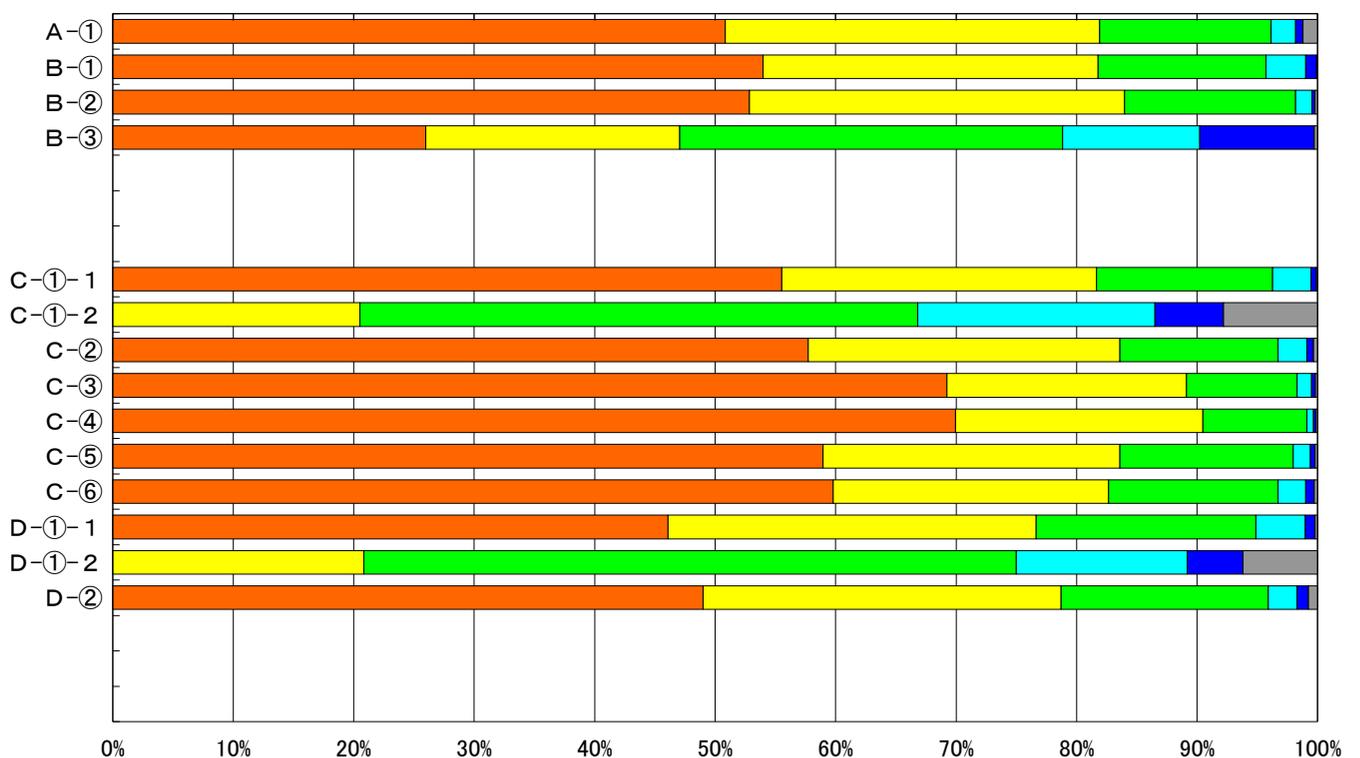
入学年度	回答数	受講者数	回収率
19生	9,379	---	---
18生	6,714	---	---
17生	3,741	---	---
16生以前	2,065	---	---
その他	69	---	---
不明	5,363	---	---
合計	27,331	30,772	89 %

質問別回答集計表(人数と平均値)

	5 とても 思う	4 やや 思う	3 普通	2 あまり 思わ ない	1 そう 思わ ない	未答	平均	全体平均
A-① この授業は、全体として満足であった。	13897	8490	3890	554	171	329	4.3	4.3
B-① この授業には、休まず出席していた。	14752	7601	3812	894	255	17	4.3	4.3
B-② この授業には、真剣な態度で受講した。	14445	8511	3880	372	67	56	4.4	4.4
B-③ この授業の登録前または履修中に、シラバスを活用した。	7100	5764	8681	3111	2604	71	3.4	3.4
C-①-1 授業の進み具合は適切であった。	15174	7141	4000	875	110	31	4.3	4.3
C-①-2 そうは思わない、あまりそう思わないの場合		4 早すぎる 202	3 少し早い 456	2 少し遅い 194	1 遅すぎる 56	未答 77		
C-② 教員はわかり易く説明していた。	15782	7065	3587	651	151	95	4.4	4.4
C-③ 授業の開始時間、終了時間はきちんと守られていた。	18928	5427	2510	331	87	48	4.6	4.6
C-④ 教員は授業に熱意を持って取り組んでいた。	19118	5614	2355	154	49	41	4.6	4.6
C-⑤ 授業中の私語には適切な処置がとられていた。	16110	6741	3933	388	107	52	4.4	4.4
C-⑥ 学生が積極的に授業に参加できるよう配慮されていた。	16344	6249	3846	623	199	70	4.4	4.4
D-①-1 授業のレベルは、自分にとって適切であった。	12595	8353	4986	1124	219	54	4.2	4.2
D-①-2 そうは思わない、あまりそう思わないの場合		4 高すぎる 280	3 少し高い 727	2 少し低い 191	1 低すぎる 62	未答 83		
D-② この授業に大変興味を持てた。	13390	8124	4699	654	259	205	4.2	4.2
E-① 教員独自の設問								
E-② 教員独自の設問								
E-③ 教員独自の設問								
E-④ 教員独自の設問								
E-⑤ 教員独自の設問								

〈評価帯グラフ〉

■とても思う(5) ■やや思う(4) ■普通(3) ■あまり思わない(2) ■そうは思わない(1) ■未答



授業科目別評価結果

(教員コード) 教員名			
科目コード		曜日	
授業コード		講時	
授業科目名	全授業(大学院)		

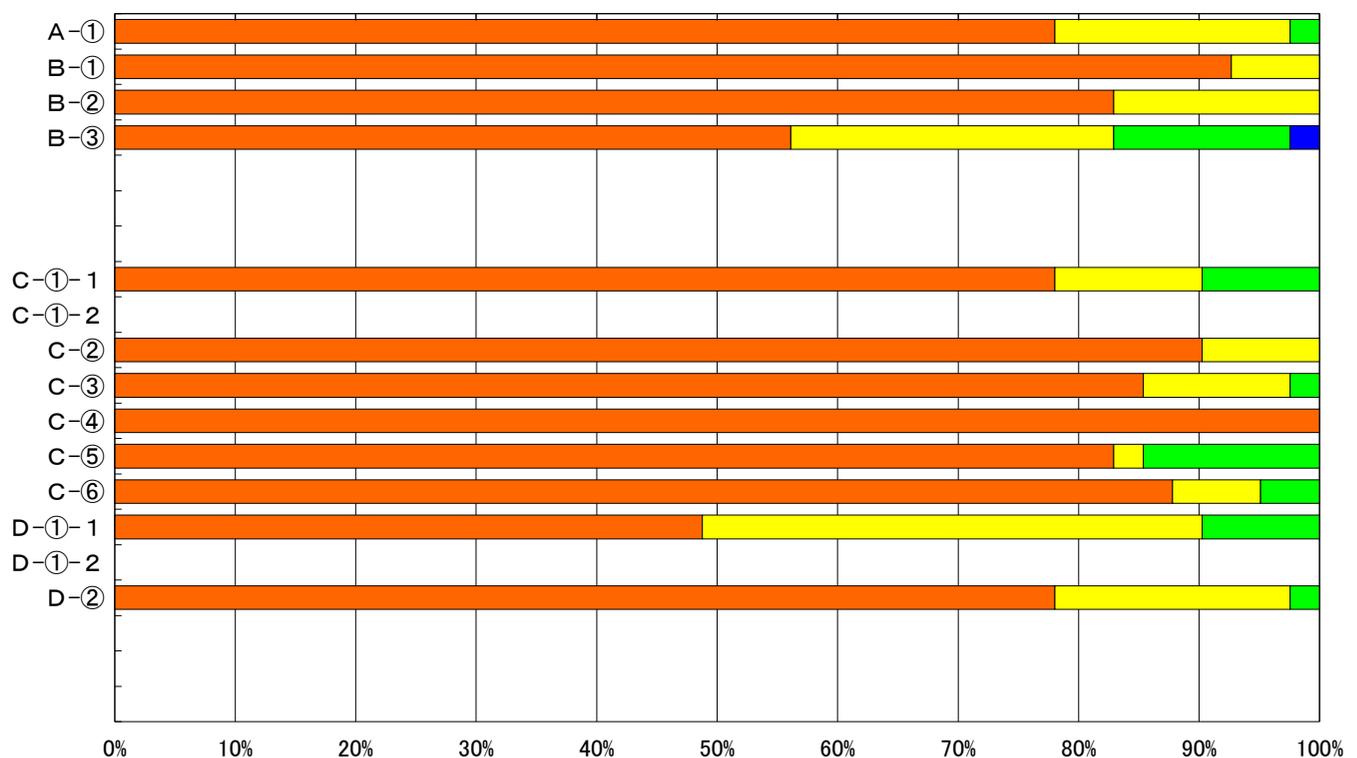
入学年度	回答数	受講者数	回収率
19生	5	---	---
18生	6	---	---
17生	1	---	---
16生以前	2	---	---
その他	22	---	---
不明	5	---	---
合計	41	43	95%

質問別回答集計表(人数と平均値)

	5 とても そう 思う	4 やや そう 思う	3 普通	2 あまり そう 思わ ない	1 そう は 思 わ な い	未答	平均	全体平均
A-① この授業は、全体として満足であった。	32	8	1	0	0	0	4.8	4.3
B-① この授業には、休まず出席していた。	38	3	0	0	0	0	4.9	4.3
B-② この授業には、真剣な態度で受講した。	34	7	0	0	0	0	4.8	4.4
B-③ この授業の登録前または履修中に、シラバスを活用した。	23	11	6	0	1	0	4.3	3.4
C-①-1 授業の進み具合は適切であった。	32	5	4	0	0	0	4.7	4.3
C-①-2 そうは思わない、あまりそう思わないの場合		4 早すぎる	3 少し早い	2 少し遅い	1 遅すぎる	未答		
C-② 教員はわかり易く説明していた。	37	4	0	0	0	0	4.9	4.4
C-③ 授業の開始時間、終了時間はきちんと守られていた。	35	5	1	0	0	0	4.8	4.6
C-④ 教員は授業に熱意を持って取り組んでいた。	41	0	0	0	0	0	5.0	4.6
C-⑤ 授業中の私語には適切な処置がとられていた。	34	1	6	0	0	0	4.7	4.4
C-⑥ 学生が積極的に授業に参加できるよう配慮されていた。	36	3	2	0	0	0	4.8	4.4
D-①-1 授業のレベルは、自分にとって適切であった。	20	17	4	0	0	0	4.4	4.2
D-①-2 そうは思わない、あまりそう思わないの場合		4 高すぎる	3 少し高い	2 少し低い	1 低すぎる	未答		
D-② この授業に大変興味を持てた。	32	8	1	0	0	0	4.8	4.2
E-① 教員独自の設問								
E-② 教員独自の設問								
E-③ 教員独自の設問								
E-④ 教員独自の設問								
E-⑤ 教員独自の設問								

〈評価帯グラフ〉

■とてもそう思う(5) ■ややそう思う(4) ■普通(3) ■あまりそう思わない(2) ■そうは思わない(1) ■未答



授業科目別評価結果

(教員コード) 教員名			
科目コード		曜日	
授業コード		講時	
授業科目名	全授業(日本語教育センター(留学生別科))		

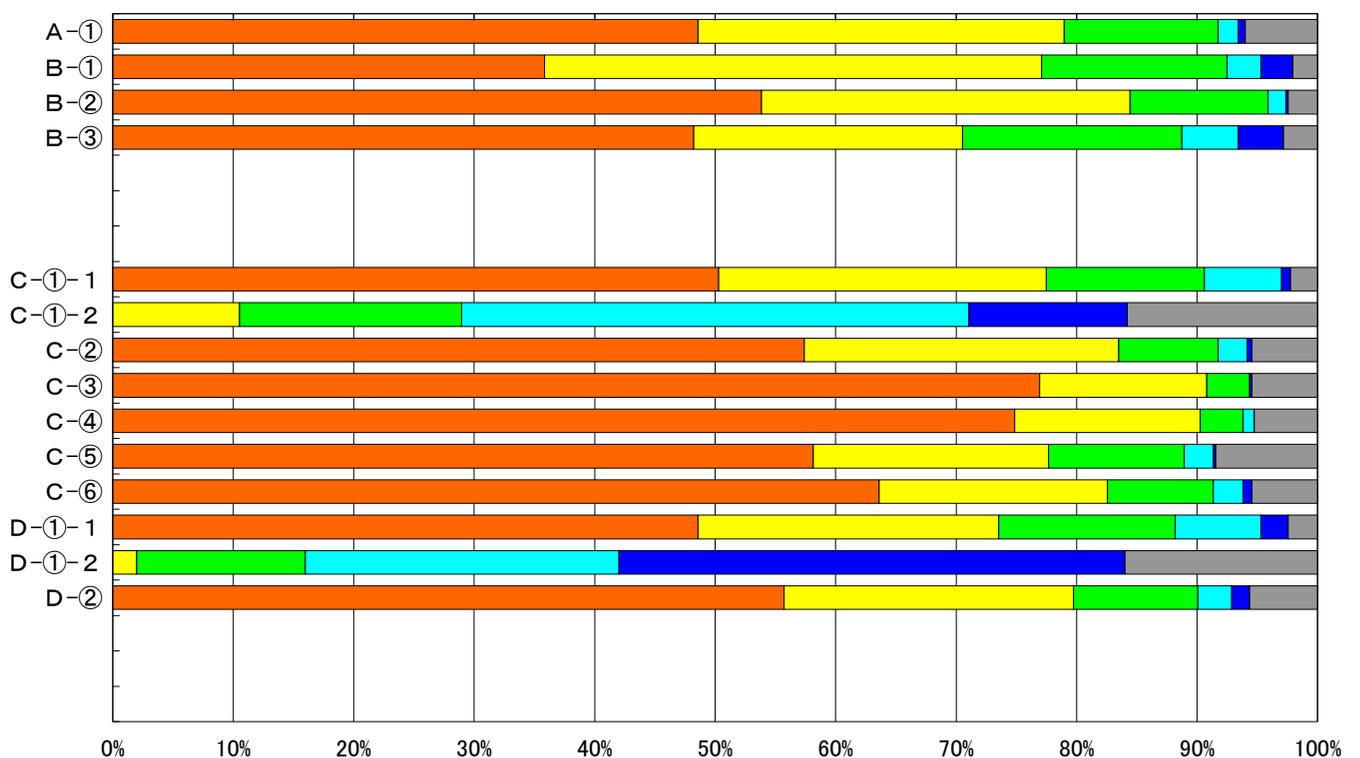
入学年度	回答数	受講者数	回収率
19生	29	---	---
18生	19	---	---
17生	9	---	---
16生以前	11	---	---
その他	258	---	---
不明	207	---	---
合計	533	602	89%

質問別回答集計表(人数と平均値)

	5 とても 思う	4 やや 思う	3 普通	2 あまり 思わな	1 そうは 思わない	未答	平均	全体平均
A-① この授業は、全体として満足であった。	259	162	68	9	3	32	4.3	4.3
B-① この授業には、休まず出席していた。	191	220	82	15	14	11	4.1	4.3
B-② この授業には、真剣な態度で受講した。	287	163	61	8	1	13	4.4	4.4
B-③ この授業の登録前または履修中に、シラバスを活用した。	257	119	97	25	20	15	4.1	3.4
C-①-1 授業の進み具合は適切であった。	268	145	70	34	4	12	4.2	4.3
C-①-2 そうは思わない、あまりそう思わないの場合		4 早すぎる	3 少し早い	2 少し遅い	1 遅すぎる	未答		
		4	7	16	5	6		
C-② 教員はわかり易く説明していた。	306	139	44	13	2	29	4.5	4.4
C-③ 授業の開始時間、終了時間はきちんと守られていた。	410	74	19	0	1	29	4.8	4.6
C-④ 教員は授業に熱意を持って取り組んでいた。	399	82	19	5	0	28	4.7	4.6
C-⑤ 授業中の私語には適切な処置がとられていた。	310	104	60	13	1	45	4.5	4.4
C-⑥ 学生が積極的に授業に参加できるよう配慮されていた。	339	101	47	13	4	29	4.5	4.4
D-①-1 授業のレベルは、自分にとって適切であった。	259	133	78	38	12	13	4.1	4.2
D-①-2 そうは思わない、あまりそう思わないの場合		4 高すぎる	3 少し高い	2 少し低い	1 低すぎる	未答		
		1	7	13	21	8		
D-② この授業に大変興味を持てた。	297	128	55	15	8	30	4.4	4.2
E-① 教員独自の設問								
E-② 教員独自の設問								
E-③ 教員独自の設問								
E-④ 教員独自の設問								
E-⑤ 教員独自の設問								

〈評価帯グラフ〉

■とてもそう思う(5) ■ややそう思う(4) ■普通(3) ■あまりそう思わない(2) ■そうは思わない(1) ■未答



授業科目別評価結果

(教員コード) 教員名			
科目コード		曜日	
授業コード		講時	
授業科目名	(学部) 01 英米語学科		

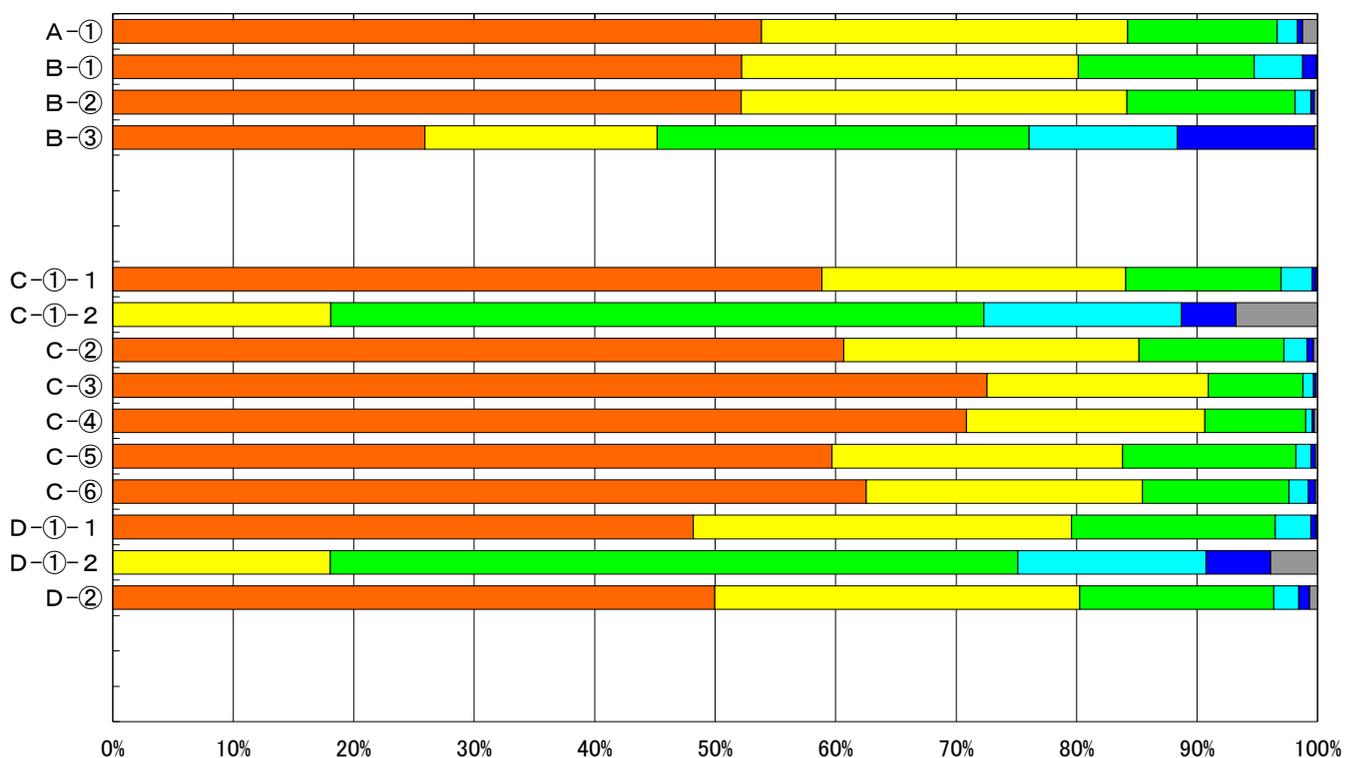
入学年度	回答数	受講者数	回収率
19生	2,511	---	---
18生	1,057	---	---
17生	765	---	---
16生以前	539	---	---
その他	16	---	---
不明	1,149	---	---
合計	6,037	6,847	88 %

質問別回答集計表(人数と平均値)

	5 とても 思う	4 やや 思う	3 普通	2 あまり 思わな	1 そうは 思わない	未答	平均	全体平均
A-① この授業は、全体として満足であった。	3,250	1,836	749	102	25	75	4.4	4.3
B-① この授業には、休まず出席していた。	3,151	1,687	883	242	69	5	4.3	4.3
B-② この授業には、真剣な態度で受講した。	3,149	1,932	844	79	17	16	4.3	4.4
B-③ この授業の登録前または履修中に、シラバスを活用した。	1,565	1,163	1,864	742	686	17	3.4	3.4
C-①-1 授業の進み具合は適切であった。	3,553	1,522	779	157	20	6	4.4	4.3
C-①-2 そうは思わない、あまりそう思わないの場合		4 早すぎる	3 少し早い	2 少し遅い	1 遅すぎる	未答		
		32	96	29	8	12		
C-② 教員はわかり易く説明していた。	3,663	1,479	726	118	31	20	4.4	4.4
C-③ 授業の開始時間、終了時間はきちんと守られていた。	4,381	1,108	476	52	12	8	4.6	4.6
C-④ 教員は授業に熱意を持って取り組んでいた。	4,277	1,196	505	33	10	16	4.6	4.6
C-⑤ 授業中の私語には適切な処置がとられていた。	3,605	1,455	869	77	20	11	4.4	4.4
C-⑥ 学生が積極的に授業に参加できるよう配慮されていた。	3,775	1,384	735	98	34	11	4.5	4.4
D-①-1 授業のレベルは、自分にとって適切であった。	2,910	1,895	1,020	178	27	7	4.2	4.2
D-①-2 そうは思わない、あまりそう思わないの場合		4 高すぎる	3 少し高い	2 少し低い	1 低すぎる	未答		
		37	117	32	11	8		
D-② この授業に大変興味を持てた。	3,017	1,829	972	125	55	39	4.3	4.2
E-① 教員独自の設問								
E-② 教員独自の設問								
E-③ 教員独自の設問								
E-④ 教員独自の設問								
E-⑤ 教員独自の設問								

〈評価帯グラフ〉

■とてもそう思う(5) ■ややそう思う(4) ■普通(3) ■あまりそう思わない(2) ■そうは思わない(1) ■未答



授業科目別評価結果

(教員コード) 教員名			
科目コード		曜日	
授業コード		講時	
授業科目名	(学部) 02 フランス語学科		

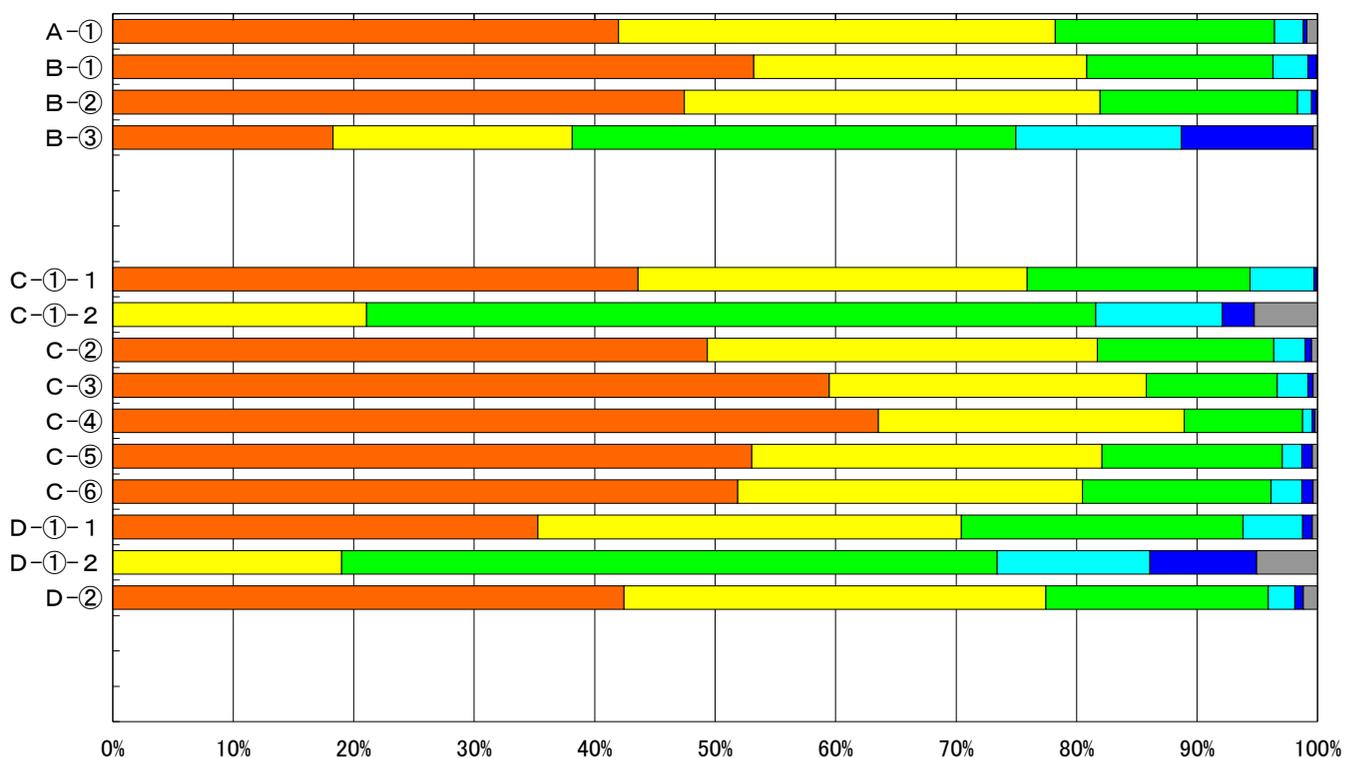
入学年度	回答数	受講者数	回収率
19生	421	---	---
18生	398	---	---
17生	133	---	---
16生以前	104	---	---
その他	0	---	---
不明	318	---	---
合計	1,374	1,541	89 %

質問別回答集計表(人数と平均値)

	5 とても 思う	4 やや 思う	3 普通	2 あまり 思わな	1 そうは 思わない	未答	平均	全体平均
A-① この授業は、全体として満足であった。	577	498	250	33	4	12	4.2	4.3
B-① この授業には、休まず出席していた。	731	380	212	40	10	1	4.3	4.3
B-② この授業には、真剣な態度で受講した。	652	474	225	16	6	1	4.3	4.4
B-③ この授業の登録前または履修中に、シラバスを活用した。	251	273	506	189	150	5	3.2	3.4
C-①-1 授業の進み具合は適切であった。	599	444	254	73	3	1	4.1	4.3
C-①-2 そうは思わない、あまりそう思わないの場合		4 早すぎる	3 少し早い	2 少し遅い	1 遅すぎる	未答		
		16	46	8	2	4		
C-② 教員はわかり易く説明していた。	678	445	201	36	7	7	4.3	4.4
C-③ 授業の開始時間、終了時間はきちんと守られていた。	817	362	149	35	6	5	4.4	4.6
C-④ 教員は授業に熱意を持って取り組んでいた。	873	349	135	11	3	3	4.5	4.6
C-⑤ 授業中の私語には適切な処置がとられていた。	729	399	206	22	12	6	4.3	4.4
C-⑥ 学生が積極的に授業に参加できるよう配慮されていた。	713	393	215	35	13	5	4.3	4.4
D-①-1 授業のレベルは、自分にとって適切であった。	485	483	321	68	11	6	4.0	4.2
D-①-2 そうは思わない、あまりそう思わないの場合		4 高すぎる	3 少し高い	2 少し低い	1 低すぎる	未答		
		15	43	10	7	4		
D-② この授業に大変興味を持てた。	583	481	254	30	10	16	4.2	4.2
E-① 教員独自の設問								
E-② 教員独自の設問								
E-③ 教員独自の設問								
E-④ 教員独自の設問								
E-⑤ 教員独自の設問								

〈評価帯グラフ〉

■とてもそう思う(5) ■ややそう思う(4) ■普通(3) ■あまりそう思わない(2) ■そうは思わない(1) ■未答



授業科目別評価結果

(教員コード) 教員名			
科目コード		曜日	
授業コード		講時	
授業科目名	(学部) 03 中国語学科		

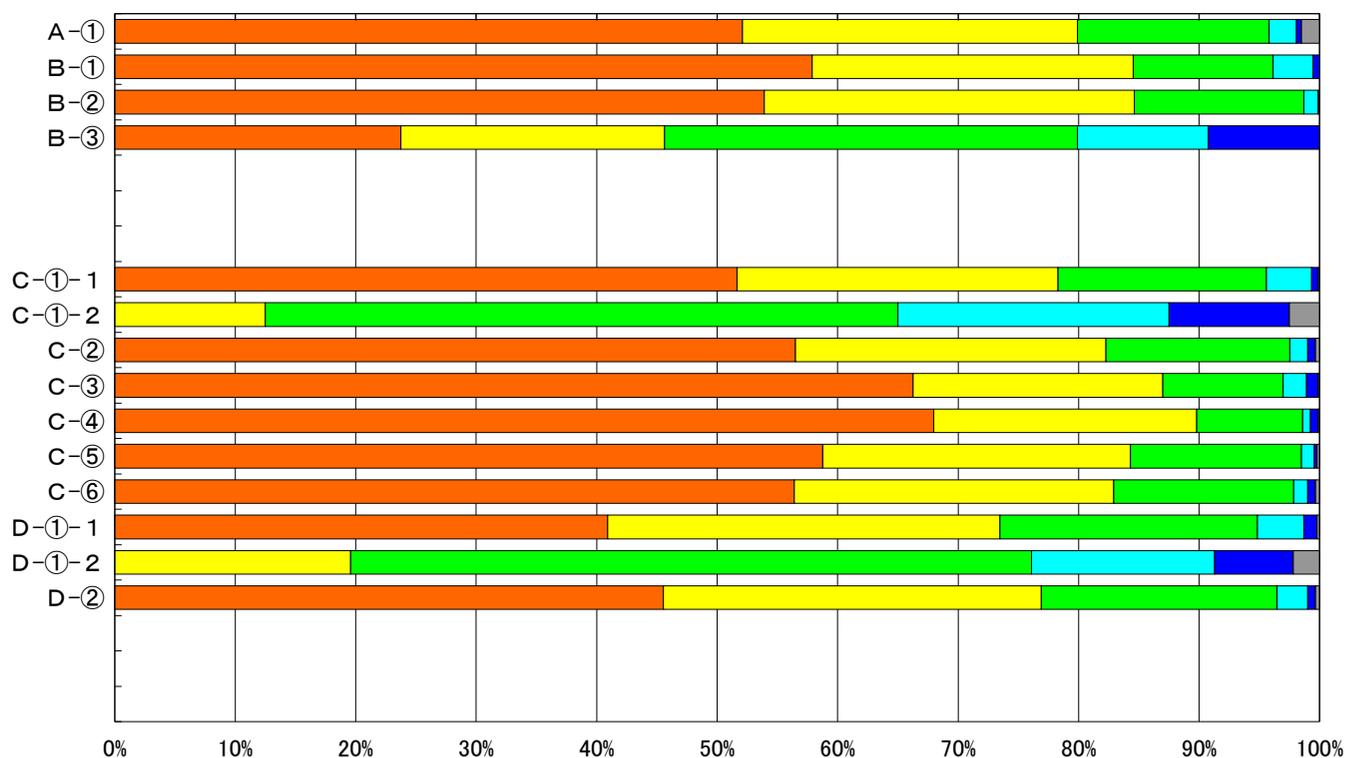
入学年度	回答数	受講者数	回収率
19生	221	---	---
18生	310	---	---
17生	115	---	---
16生以前	59	---	---
その他	4	---	---
不明	222	---	---
合計	931	1,116	83 %

質問別回答集計表(人数と平均値)

	5 とても 思う	4 やや 思う	3 普通	2 あまり 思わな	1 そうは 思わない	未答	平均	全体平均
A-① この授業は、全体として満足であった。	485	259	148	21	4	14	4.3	4.3
B-① この授業には、休まず出席していた。	539	248	108	31	5	0	4.4	4.3
B-② この授業には、真剣な態度で受講した。	502	286	131	11	1	0	4.4	4.4
B-③ この授業の登録前または履修中に、シラバスを活用した。	221	204	319	101	86	0	3.4	3.4
C-①-1 授業の進み具合は適切であった。	481	248	161	35	5	1	4.3	4.3
C-①-2 そうは思わない、あまりそう思わないの場合		4 早すぎる	3 少し早い	2 少し遅い	1 遅すぎる	未答		
C-② 教員はわかり易く説明していた。	526	240	142	14	6	3	4.4	4.4
C-③ 授業の開始時間、終了時間はきちんと守られていた。	617	193	93	18	9	1	4.5	4.6
C-④ 教員は授業に熱意を持って取り組んでいた。	633	203	82	6	6	1	4.6	4.6
C-⑤ 授業中の私語には適切な処置がとられていた。	547	238	132	10	2	2	4.4	4.4
C-⑥ 学生が積極的に授業に参加できるよう配慮されていた。	525	247	139	11	6	3	4.4	4.4
D-①-1 授業のレベルは、自分にとって適切であった。	381	303	199	36	10	2	4.1	4.2
D-①-2 そうは思わない、あまりそう思わないの場合		4 高すぎる	3 少し高い	2 少し低い	1 低すぎる	未答		
D-② この授業に大変興味を持てた。	424	292	182	24	6	3	4.2	4.2
E-① 教員独自の設問								
E-② 教員独自の設問								
E-③ 教員独自の設問								
E-④ 教員独自の設問								
E-⑤ 教員独自の設問								

〈評価帯グラフ〉

■とてもそう思う(5) ■ややそう思う(4) ■普通(3) ■あまりそう思わない(2) ■そうは思わない(1) ■未答



授業科目別評価結果

(教員コード) 教員名			
科目コード		曜日	
授業コード		講時	
授業科目名	(学部) 04 日本語学科		

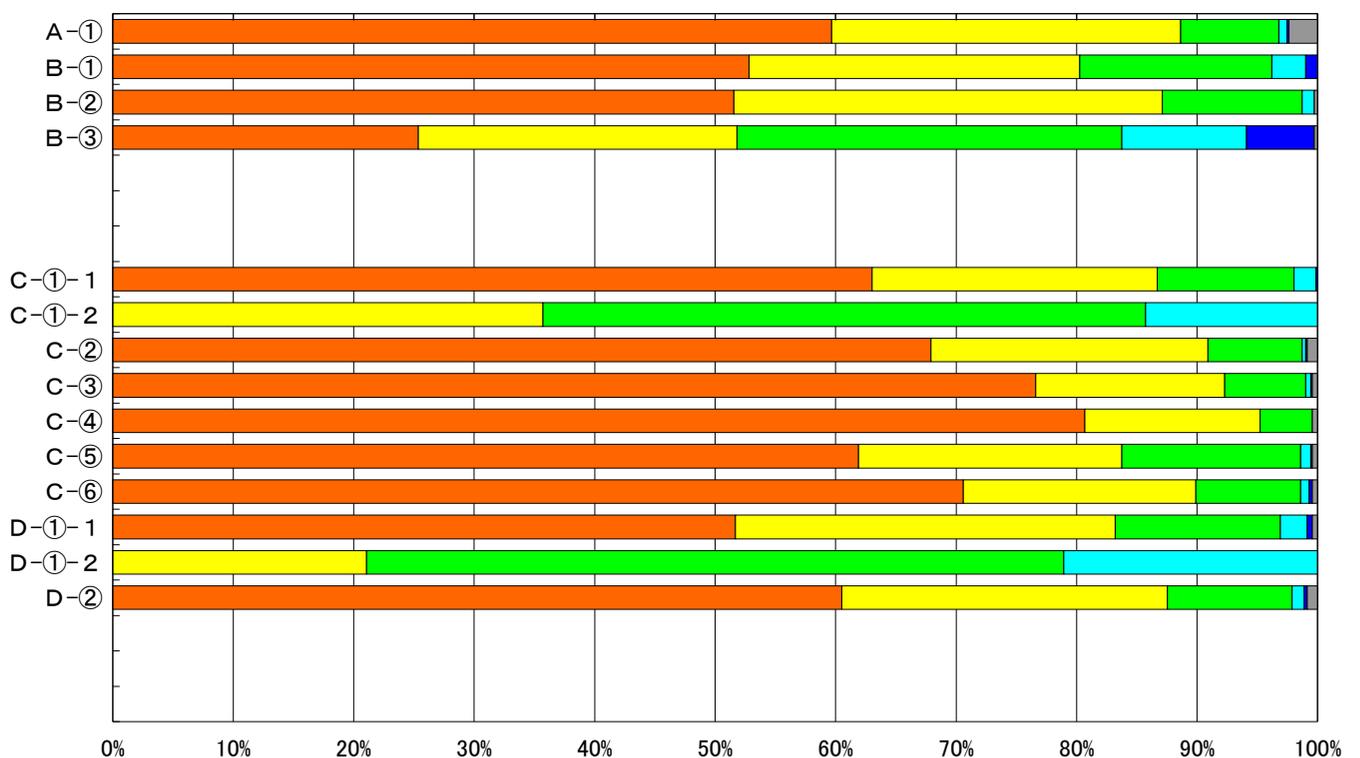
入学年度	回答数	受講者数	回収率
19生	1	---	---
18生	208	---	---
17生	206	---	---
16生以前	106	---	---
その他	29	---	---
不明	164	---	---
合計	714	812	88%

質問別回答集計表(人数と平均値)

	5 とても 思う	4 やや 思う	3 普通	2 あまり 思わ ない	1 そう は 思わ ない	未答	平均	全体平均
A-① この授業は、全体として満足であった。	426	207	58	5	1	17	4.5	4.3
B-① この授業には、休まず出席していた。	377	196	114	20	7	0	4.3	4.3
B-② この授業には、真剣な態度で受講した。	368	254	83	7	0	2	4.4	4.4
B-③ この授業の登録前または履修中に、シラバスを活用した。	181	189	228	74	40	2	3.6	3.4
C-①-1 授業の進み具合は適切であった。	450	169	81	13	1	0	4.5	4.3
C-①-2 そうは思わない、あまり思わないの場合		4 早すぎる	3 少し早い	2 少し遅い	1 遅すぎる	未答		
C-② 教員はわかり易く説明していた。	485	164	56	2	1	6	4.6	4.4
C-③ 授業の開始時間、終了時間はきちんと守られていた。	547	112	48	3	1	3	4.7	4.6
C-④ 教員は授業に熱意を持って取り組んでいた。	576	104	31	0	0	3	4.8	4.6
C-⑤ 授業中の私語には適切な処置がとられていた。	442	156	106	6	1	3	4.5	4.4
C-⑥ 学生が積極的に授業に参加できるよう配慮されていた。	504	138	62	5	2	3	4.6	4.4
D-①-1 授業のレベルは、自分にとって適切であった。	369	225	98	16	3	3	4.3	4.2
D-①-2 そうは思わない、あまり思わないの場合		4 高すぎる	3 少し高い	2 少し低い	1 低すぎる	未答		
D-② この授業に大変興味を持てた。	432	193	74	7	2	6	4.5	4.2
E-① 教員独自の設問								
E-② 教員独自の設問								
E-③ 教員独自の設問								
E-④ 教員独自の設問								
E-⑤ 教員独自の設問								

〈評価帯グラフ〉

■とても思う(5) ■やや思う(4) ■普通(3) ■あまり思わない(2) ■そうは思わない(1) ■未答



授業科目別評価結果

(教員コード) 教員名			
科目コード		曜日	
授業コード		講時	
授業科目名	(学部) 05 英語教育学科		

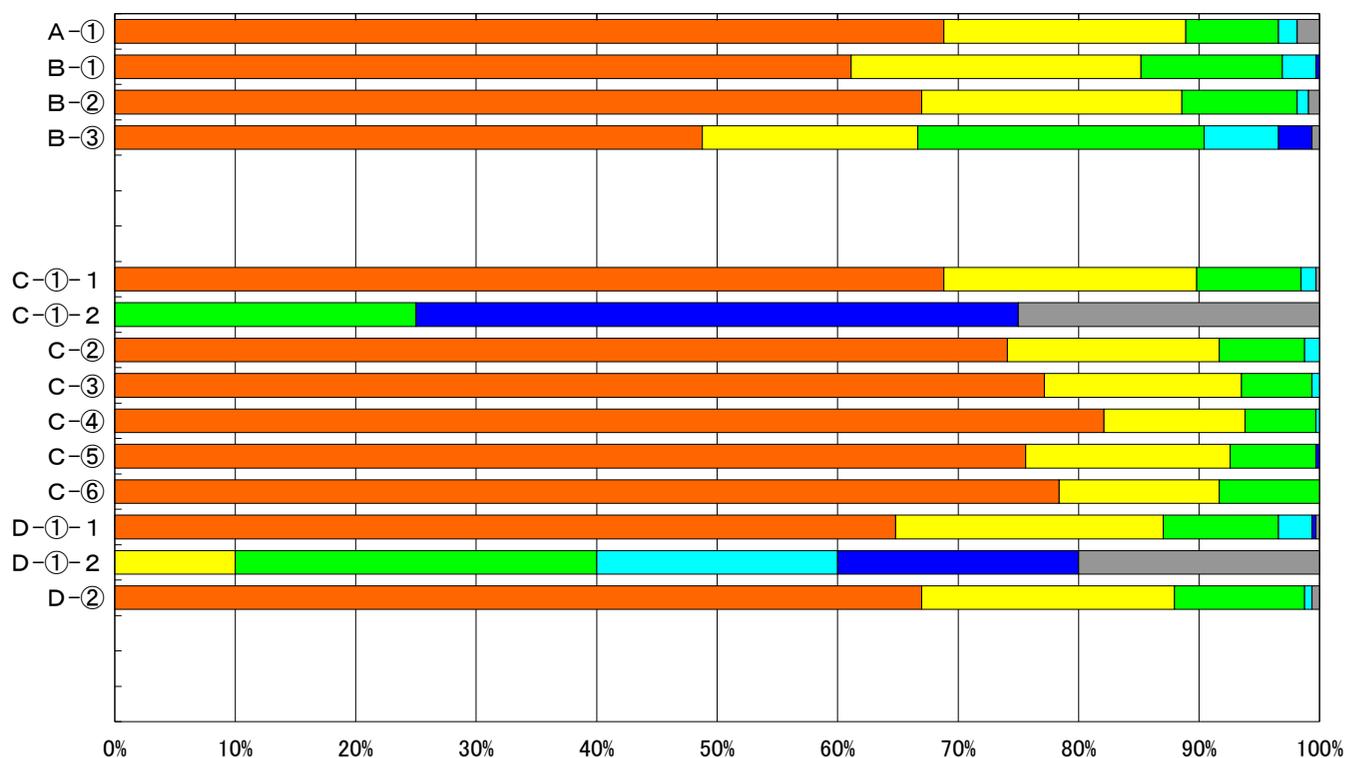
入学年度	回答数	受講者数	回収率
19生	0	---	---
18生	154	---	---
17生	49	---	---
16生以前	26	---	---
その他	0	---	---
不明	95	---	---
合計	324	369	88 %

質問別回答集計表(人数と平均値)

	5 とても 思う	4 ややそ う思う	3 普通	2 あまり そう思 わな	1 そうは 思わな い	未答	平均	全体平均
A-① この授業は、全体として満足であった。	223	65	25	5	0	6	4.6	4.3
B-① この授業には、休まず出席していた。	198	78	38	9	1	0	4.4	4.3
B-② この授業には、真剣な態度で受講した。	217	70	31	3	0	3	4.6	4.4
B-③ この授業の登録前または履修中に、シラバスを活用した。	158	58	77	20	9	2	4.0	3.4
C-①-1 授業の進み具合は適切であった。	223	68	28	4	0	1	4.6	4.3
C-①-2 そうは思わない、あまりそう思わないの場合		4 早すぎる 0	3 少し早い 1	2 少し遅い 0	1 遅すぎる 2	未答 1		
C-② 教員はわかり易く説明していた。	240	57	23	4	0	0	4.6	4.4
C-③ 授業の開始時間、終了時間はきちんと守られていた。	250	53	19	2	0	0	4.7	4.6
C-④ 教員は授業に熱意を持って取り組んでいた。	266	38	19	1	0	0	4.8	4.6
C-⑤ 授業中の私語には適切な処置がとられていた。	245	55	23	0	1	0	4.7	4.4
C-⑥ 学生が積極的に授業に参加できるよう配慮されていた。	254	43	27	0	0	0	4.7	4.4
D-①-1 授業のレベルは、自分にとって適切であった。	210	72	31	9	1	1	4.5	4.2
D-①-2 そうは思わない、あまりそう思わないの場合		4 高すぎる 1	3 少し高い 3	2 少し低い 2	1 低すぎる 2	未答 2		
D-② この授業に大変興味を持てた。	217	68	35	2	0	2	4.6	4.2
E-① 教員独自の設問								
E-② 教員独自の設問								
E-③ 教員独自の設問								
E-④ 教員独自の設問								
E-⑤ 教員独自の設問								

〈評価帯グラフ〉

■とてもそう思う(5) ■ややそう思う(4) ■普通(3) ■あまりそう思わない(2) ■そうは思わない(1) ■未答



授業科目別評価結果

(教員コード) 教員名			
科目コード		曜日	
授業コード		講時	
授業科目名	(学部) 06 世界教養学科		

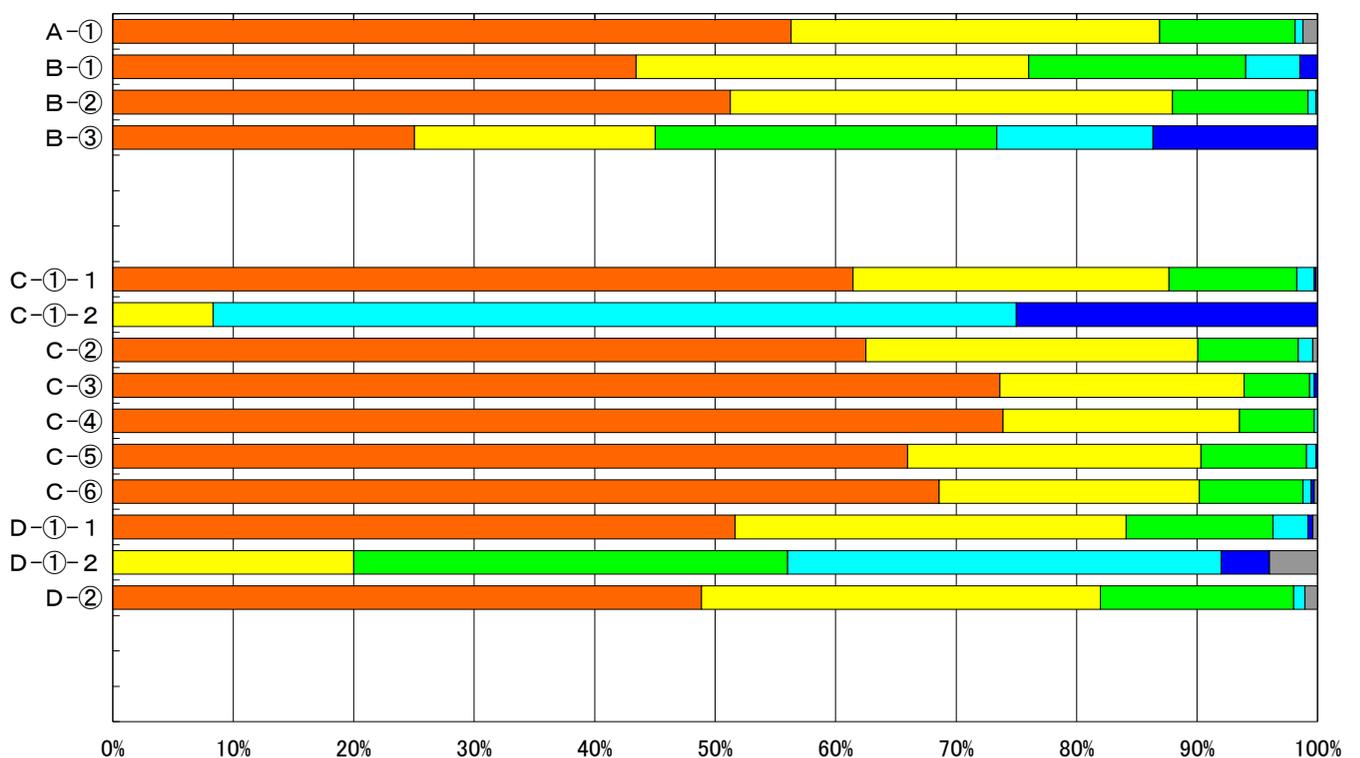
入学年度	回答数	受講者数	回収率
19生	1	---	---
18生	212	---	---
17生	175	---	---
16生以前	198	---	---
その他	0	---	---
不明	169	---	---
合計	755	893	85 %

質問別回答集計表(人数と平均値)

	5 とても 思う	4 やや 思う	3 普通	2 あまり 思わ ない	1 そう は 思わ ない	未答	平均	全体平均
A-① この授業は、全体として満足であった。	425	231	85	5	0	9	4.4	4.3
B-① この授業には、休まず出席していた。	328	246	136	34	11	0	4.1	4.3
B-② この授業には、真剣な態度で受講した。	387	277	85	5	0	1	4.4	4.4
B-③ この授業の登録前または履修中に、シラバスを活用した。	189	151	214	98	103	0	3.3	3.4
C-①-1 授業の進み具合は適切であった。	464	198	80	11	1	1	4.5	4.3
C-①-2 そうは思わない、あまり思わないの場合		4 早すぎる 1	3 少し早い 0	2 少し遅い 8	1 遅すぎる 3	未答 0		
C-② 教員はわかり易く説明していた。	472	208	63	9	0	3	4.5	4.4
C-③ 授業の開始時間、終了時間はきちんと守られていた。	556	153	41	3	2	0	4.7	4.6
C-④ 教員は授業に熱意を持って取り組んでいた。	558	148	47	2	0	0	4.7	4.6
C-⑤ 授業中の私語には適切な処置がとられていた。	498	184	66	6	1	0	4.6	4.4
C-⑥ 学生が積極的に授業に参加できるよう配慮されていた。	518	163	65	5	2	2	4.6	4.4
D-①-1 授業のレベルは、自分にとって適切であった。	390	245	92	22	3	3	4.3	4.2
D-①-2 そうは思わない、あまり思わないの場合		4 高すぎる 5	3 少し高い 9	2 少し低い 9	1 低すぎる 1	未答 1		
D-② この授業に大変興味を持てた。	369	250	121	7	0	8	4.3	4.2
E-① 教員独自の設問								
E-② 教員独自の設問								
E-③ 教員独自の設問								
E-④ 教員独自の設問								
E-⑤ 教員独自の設問								

〈評価帯グラフ〉

■とても思う(5) ■やや思う(4) ■普通(3) ■あまり思わない(2) ■そうは思わない(1) ■未答



授業科目別評価結果

(教員コード) 教員名			
科目コード		曜日	
授業コード		講時	
授業科目名	(学部) 07 外国語学部共通		

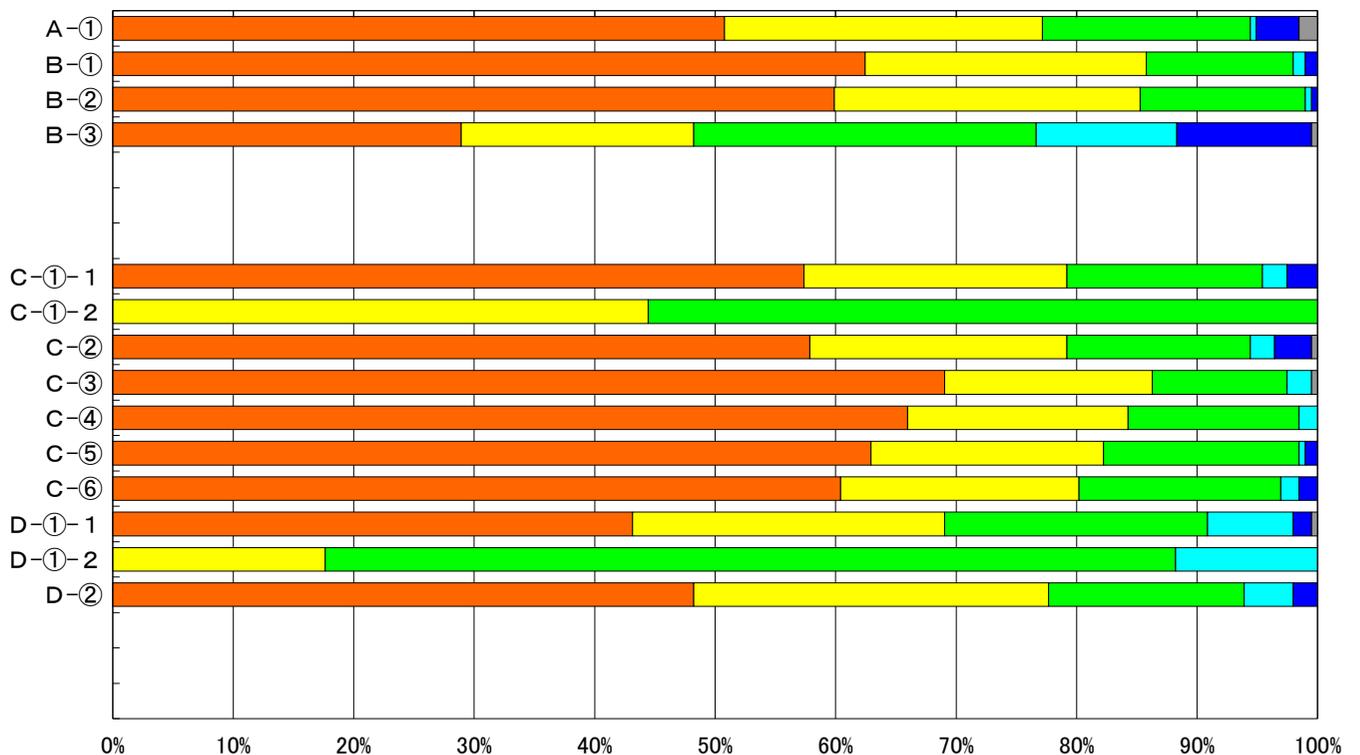
入学年度	回答数	受講者数	回収率
19生	1	---	---
18生	124	---	---
17生	11	---	---
16生以前	8	---	---
その他	0	---	---
不明	53	---	---
合計	197	217	91%

質問別回答集計表(人数と平均値)

	5 とても 思う	4 やや 思う	3 普通	2 あまり 思わな	1 そうは 思わない	未答	平均	全体平均
A-① この授業は、全体として満足であった。	100	52	34	1	7	3	4.2	4.3
B-① この授業には、休まず出席していた。	123	46	24	2	2	0	4.5	4.3
B-② この授業には、真剣な態度で受講した。	118	50	27	1	1	0	4.4	4.4
B-③ この授業の登録前または履修中に、シラバスを活用した。	57	38	56	23	22	1	3.4	3.4
C-①-1 授業の進み具合は適切であった。	113	43	32	4	5	0	4.3	4.3
C-①-2 そうは思わない、あまりそう思わないの場合		4 早すぎる	3 少し早い	2 少し遅い	1 遅すぎる	未答		
C-② 教員はわかり易く説明していた。	114	42	30	4	6	1	4.3	4.4
C-③ 授業の開始時間、終了時間はきちんと守られていた。	136	34	22	4	0	1	4.5	4.6
C-④ 教員は授業に熱意を持って取り組んでいた。	130	36	28	3	0	0	4.5	4.6
C-⑤ 授業中の私語には適切な処置がとられていた。	124	38	32	1	2	0	4.4	4.4
C-⑥ 学生が積極的に授業に参加できるよう配慮されていた。	119	39	33	3	3	0	4.4	4.4
D-①-1 授業のレベルは、自分にとって適切であった。	85	51	43	14	3	1	4.0	4.2
D-①-2 そうは思わない、あまりそう思わないの場合		4 高すぎる	3 少し高い	2 少し低い	1 低すぎる	未答		
D-② この授業に大変興味を持てた。	95	58	32	8	4	0	4.2	4.2
E-① 教員独自の設問								
E-② 教員独自の設問								
E-③ 教員独自の設問								
E-④ 教員独自の設問								
E-⑤ 教員独自の設問								

〈評価帯グラフ〉

■とてもそう思う(5) ■ややそう思う(4) ■普通(3) ■あまりそう思わない(2) ■そうは思わない(1) ■未答



授業科目別評価結果

(教員コード) 教員名			
科目コード		曜日	
授業コード		講時	
授業科目名	(学部) 09 グローバルビジネス学科		

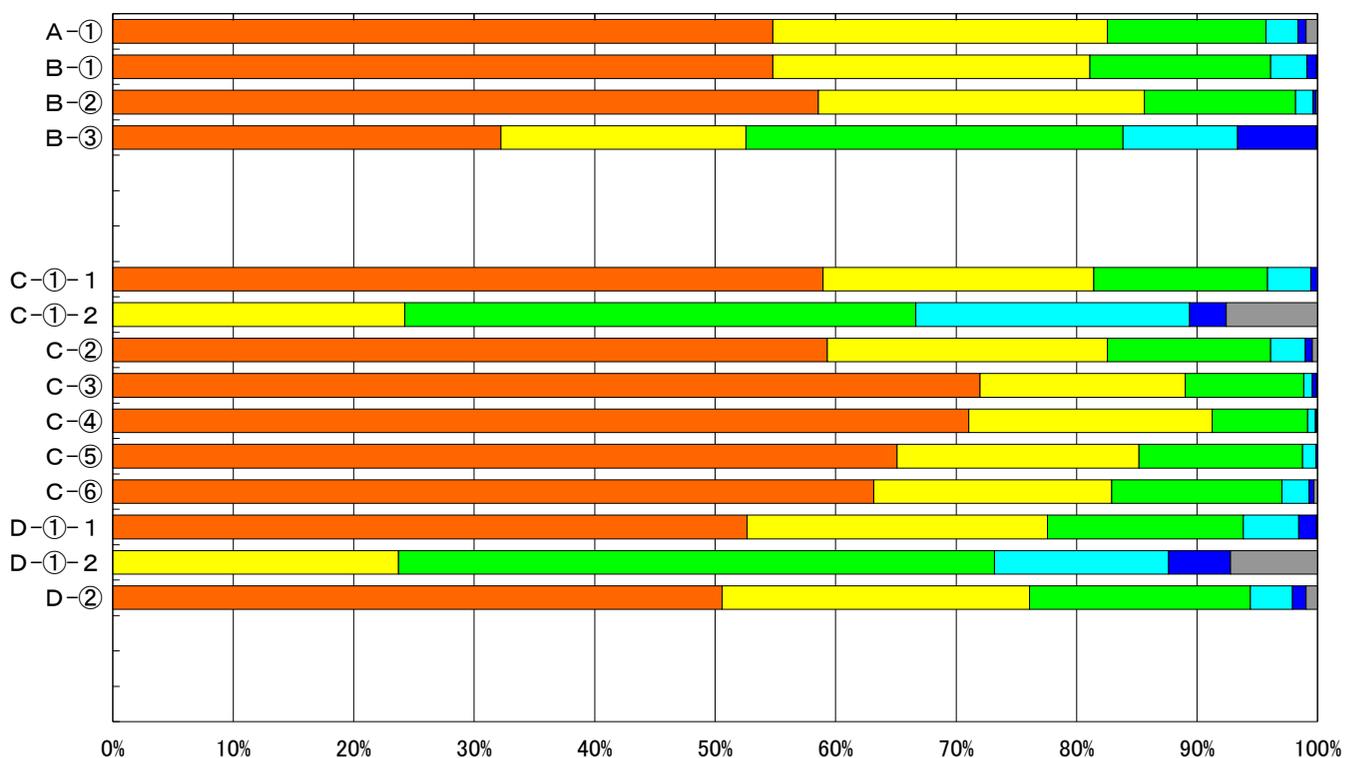
入学年度	回答数	受講者数	回収率
19生	718	---	---
18生	343	---	---
17生	161	---	---
16生以前	53	---	---
その他	1	---	---
不明	317	---	---
合計	1,593	1,767	90 %

質問別回答集計表(人数と平均値)

	5 とても 思う	4 やや 思う	3 普通	2 あまり 思わな	1 そうは 思わない	未答	平均	全体平均
A-① この授業は、全体として満足であった。	873	442	210	42	11	15	4.3	4.3
B-① この授業には、休まず出席していた。	873	419	239	48	13	1	4.3	4.3
B-② この授業には、真剣な態度で受講した。	933	431	200	23	4	2	4.4	4.4
B-③ この授業の登録前または履修中に、シラバスを活用した。	513	324	499	151	105	1	3.6	3.4
C-①-1 授業の進み具合は適切であった。	939	358	230	57	9	0	4.4	4.3
C-①-2 そうは思わない、あまりそう思わないの場合		4 早すぎる 16	3 少し早い 28	2 少し遅い 15	1 遅すぎる 2	未答 5		
C-② 教員はわかり易く説明していた。	945	370	216	46	9	7	4.4	4.4
C-③ 授業の開始時間、終了時間はきちんと守られていた。	1,147	271	157	11	6	1	4.6	4.6
C-④ 教員は授業に熱意を持って取り組んでいた。	1,132	322	126	10	2	1	4.6	4.6
C-⑤ 授業中の私語には適切な処置がとられていた。	1,037	320	216	18	2	0	4.5	4.4
C-⑥ 学生が積極的に授業に参加できるよう配慮されていた。	1,006	315	225	36	6	5	4.4	4.4
D-①-1 授業のレベルは、自分にとって適切であった。	839	397	259	73	24	1	4.2	4.2
D-①-2 そうは思わない、あまりそう思わないの場合		4 高すぎる 23	3 少し高い 48	2 少し低い 14	1 低すぎる 5	未答 7		
D-② この授業に大変興味を持てた。	806	406	292	56	18	15	4.2	4.2
E-① 教員独自の設問								
E-② 教員独自の設問								
E-③ 教員独自の設問								
E-④ 教員独自の設問								
E-⑤ 教員独自の設問								

〈評価帯グラフ〉

■とても思う(5) ■やや思う(4) ■普通(3) ■あまり思わない(2) ■そうは思わない(1) ■未答



授業科目別評価結果

(教員コード) 教員名			
科目コード		曜日	
授業コード		講時	
授業科目名	(学部) 08 現代英語学科		

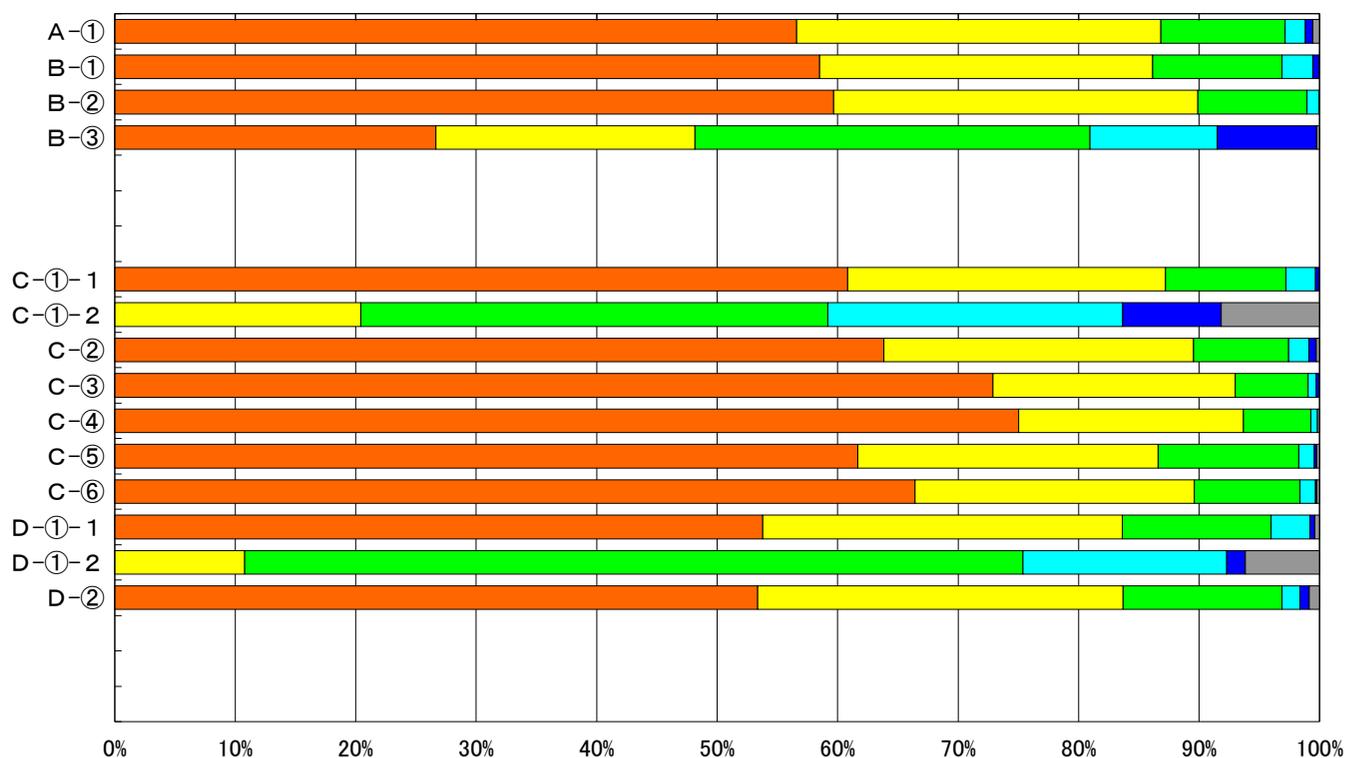
入学年度	回答数	受講者数	回収率
19生	628	---	---
18生	532	---	---
17生	176	---	---
16生以前	163	---	---
その他	3	---	---
不明	288	---	---
合計	1,790	1,998	90 %

質問別回答集計表(人数と平均値)

	5 とても 思う	4 やや 思う	3 普通	2 あまり 思わ ない	1 そう は 思 わ な い	未答	平均	全体平均
A-① この授業は、全体として満足であった。	1,013	541	185	30	11	10	4.4	4.3
B-① この授業には、休まず出席していた。	1,047	495	192	46	9	1	4.4	4.3
B-② この授業には、真剣な態度で受講した。	1,068	541	162	18	0	1	4.5	4.4
B-③ この授業の登録前または履修中に、シラバスを活用した。	477	385	587	189	148	4	3.5	3.4
C-①-1 授業の進み具合は適切であった。	1,089	472	179	44	5	1	4.5	4.3
C-①-2 そうは思わない、あまり思わないの場合		4 早すぎる	3 少し早い	2 少し遅い	1 遅すぎる	未答		
		10	19	12	4	4		
C-② 教員はわかり易く説明していた。	1,143	460	141	30	11	5	4.5	4.4
C-③ 授業の開始時間、終了時間はきちんと守られていた。	1,305	360	108	12	4	1	4.6	4.6
C-④ 教員は授業に熱意を持って取り組んでいた。	1,343	334	100	10	0	3	4.7	4.6
C-⑤ 授業中の私語には適切な処置がとられていた。	1,104	446	209	23	4	4	4.5	4.4
C-⑥ 学生が積極的に授業に参加できるよう配慮されていた。	1,189	415	157	23	2	4	4.5	4.4
D-①-1 授業のレベルは、自分にとって適切であった。	963	534	221	58	7	7	4.3	4.2
D-①-2 そうは思わない、あまり思わないの場合		4 高すぎる	3 少し高い	2 少し低い	1 低すぎる	未答		
		7	42	11	1	4		
D-② この授業に大変興味を持てた。	955	543	236	27	14	15	4.4	4.2
E-① 教員独自の設問								
E-② 教員独自の設問								
E-③ 教員独自の設問								
E-④ 教員独自の設問								
E-⑤ 教員独自の設問								

〈評価帯グラフ〉

■とても思う(5) ■やや思う(4) ■普通(3) ■あまり思わない(2) ■そうは思わない(1) ■未答



授業科目別評価結果

(教員コード) 教員名			
科目コード		曜日	
授業コード		講時	
授業科目名	(学部) 10 国際教養学科		

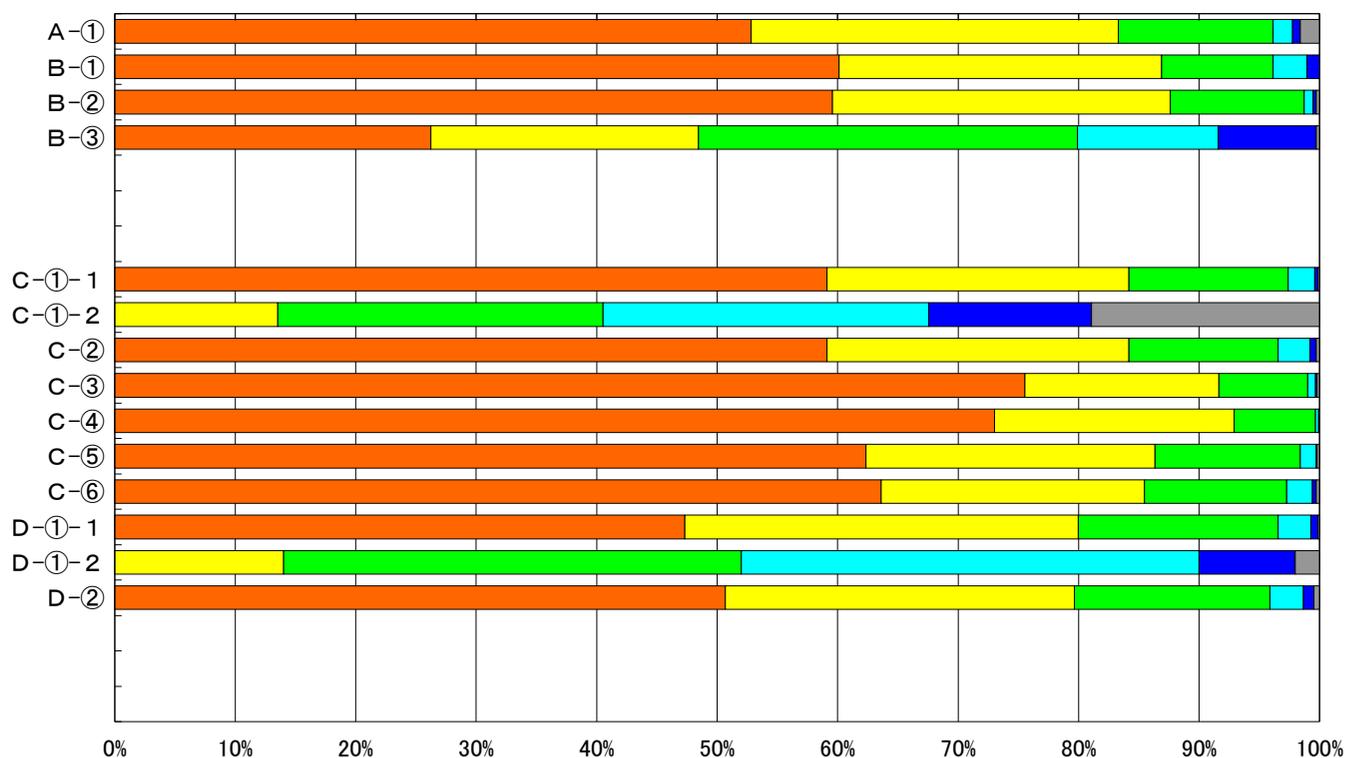
入学年度	回答数	受講者数	回収率
19生	680	---	---
18生	386	---	---
17生	126	---	---
16生以前	58	---	---
その他	9	---	---
不明	250	---	---
合計	1,509	1,690	89 %

質問別回答集計表(人数と平均値)

	5 とても 思う	4 やや 思う	3 普通	2 あまり 思わな	1 そうは 思わない	未答	平均	全体平均
A-① この授業は、全体として満足であった。	797	460	194	24	10	24	4.4	4.3
B-① この授業には、休まず出席していた。	907	404	140	42	16	0	4.4	4.3
B-② この授業には、真剣な態度で受講した。	899	423	168	11	4	4	4.5	4.4
B-③ この授業の登録前または履修中に、シラバスを活用した。	396	335	475	176	123	4	3.5	3.4
C-①-1 授業の進み具合は適切であった。	892	378	200	33	4	2	4.4	4.3
C-①-2 そうは思わない、あまり思わないの場合		4 早すぎる	3 少し早い	2 少し遅い	1 遅すぎる	未答		
		5	10	10	5	7		
C-② 教員はわかり易く説明していた。	892	378	187	40	8	4	4.4	4.4
C-③ 授業の開始時間、終了時間はきちんと守られていた。	1,140	243	111	10	2	3	4.7	4.6
C-④ 教員は授業に熱意を持って取り組んでいた。	1,102	300	102	4	0	1	4.7	4.6
C-⑤ 授業中の私語には適切な処置がとられていた。	941	362	182	20	1	3	4.5	4.4
C-⑥ 学生が積極的に授業に参加できるよう配慮されていた。	960	330	178	32	5	4	4.5	4.4
D-①-1 授業のレベルは、自分にとって適切であった。	714	493	250	41	9	2	4.2	4.2
D-①-2 そうは思わない、あまり思わないの場合		4 高すぎる	3 少し高い	2 少し低い	1 低すぎる	未答		
		7	19	19	4	1		
D-② この授業に大変興味を持てた。	765	437	245	42	13	7	4.3	4.2
E-① 教員独自の設問								
E-② 教員独自の設問								
E-③ 教員独自の設問								
E-④ 教員独自の設問								
E-⑤ 教員独自の設問								

〈評価帯グラフ〉

■とても思う(5) ■やや思う(4) ■普通(3) ■あまり思わない(2) ■そうは思わない(1) ■未答



授業科目別評価結果

(教員コード) 教員名			
科目コード		曜日	
授業コード		講時	
授業科目名	(学部) 11 現代国際学部共通		

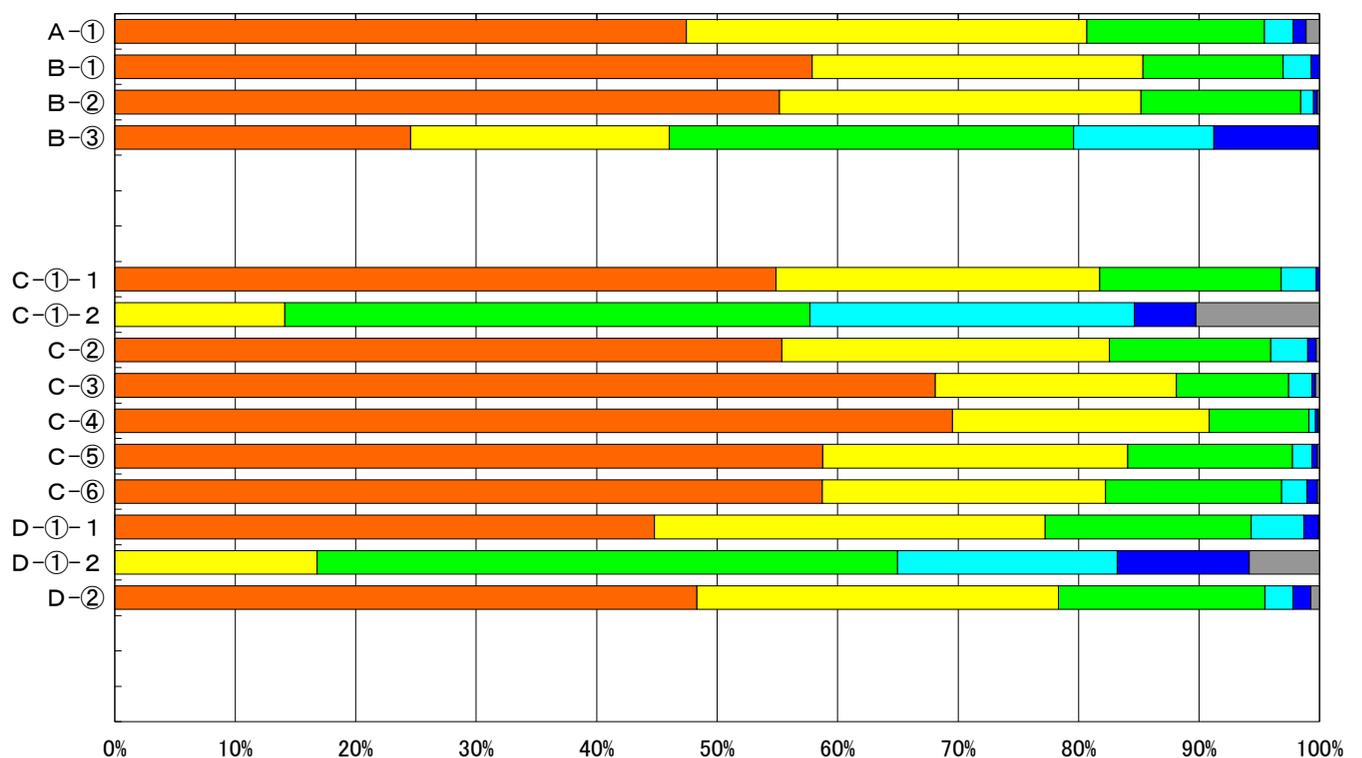
入学年度	回答数	受講者数	回収率
19生	1,143	---	---
18生	623	---	---
17生	236	---	---
16生以前	55	---	---
その他	0	---	---
不明	392	---	---
合計	2,449	2,649	92 %

質問別回答集計表(人数と平均値)

	5 とても 思う	4 やや 思う	3 普通	2 あまり 思わな	1 そうは 思わない	未答	平均	全体平均
A-① この授業は、全体として満足であった。	1,162	814	361	59	26	27	4.2	4.3
B-① この授業には、休まず出席していた。	1,418	672	285	57	17	0	4.4	4.3
B-② この授業には、真剣な態度で受講した。	1,351	735	325	26	8	4	4.4	4.4
B-③ この授業の登録前または履修中に、シラバスを活用した。	601	526	822	285	212	3	3.4	3.4
C-①-1 授業の進み具合は適切であった。	1,344	658	369	71	7	0	4.3	4.3
C-①-2 そうは思わない、あまり思わないの場合		4 早すぎる 11	3 少し早い 34	2 少し遅い 21	1 遅すぎる 4	未答 8		
C-② 教員はわかり易く説明していた。	1,356	666	328	75	17	7	4.3	4.4
C-③ 授業の開始時間、終了時間はきちんと守られていた。	1,668	490	228	48	7	8	4.5	4.6
C-④ 教員は授業に熱意を持って取り組んでいた。	1,703	522	202	14	5	3	4.6	4.6
C-⑤ 授業中の私語には適切な処置がとられていた。	1,439	620	335	40	11	4	4.4	4.4
C-⑥ 学生が積極的に授業に参加できるよう配慮されていた。	1,438	576	358	51	22	4	4.4	4.4
D-①-1 授業のレベルは、自分にとって適切であった。	1,097	794	419	107	30	2	4.2	4.2
D-①-2 そうは思わない、あまり思わないの場合		4 高すぎる 23	3 少し高い 66	2 少し低い 25	1 低すぎる 15	未答 8		
D-② この授業に大変興味を持てた。	1,183	735	420	57	36	18	4.2	4.2
E-① 教員独自の設問								
E-② 教員独自の設問								
E-③ 教員独自の設問								
E-④ 教員独自の設問								
E-⑤ 教員独自の設問								

〈評価帯グラフ〉

■とても思う(5) ■やや思う(4) ■普通(3) ■あまり思わない(2) ■そうは思わない(1) ■未答



授業科目別評価結果

(教員コード) 教員名			
科目コード		曜日	
授業コード		講時	
授業科目名	(学部) 12 世界共生学科		

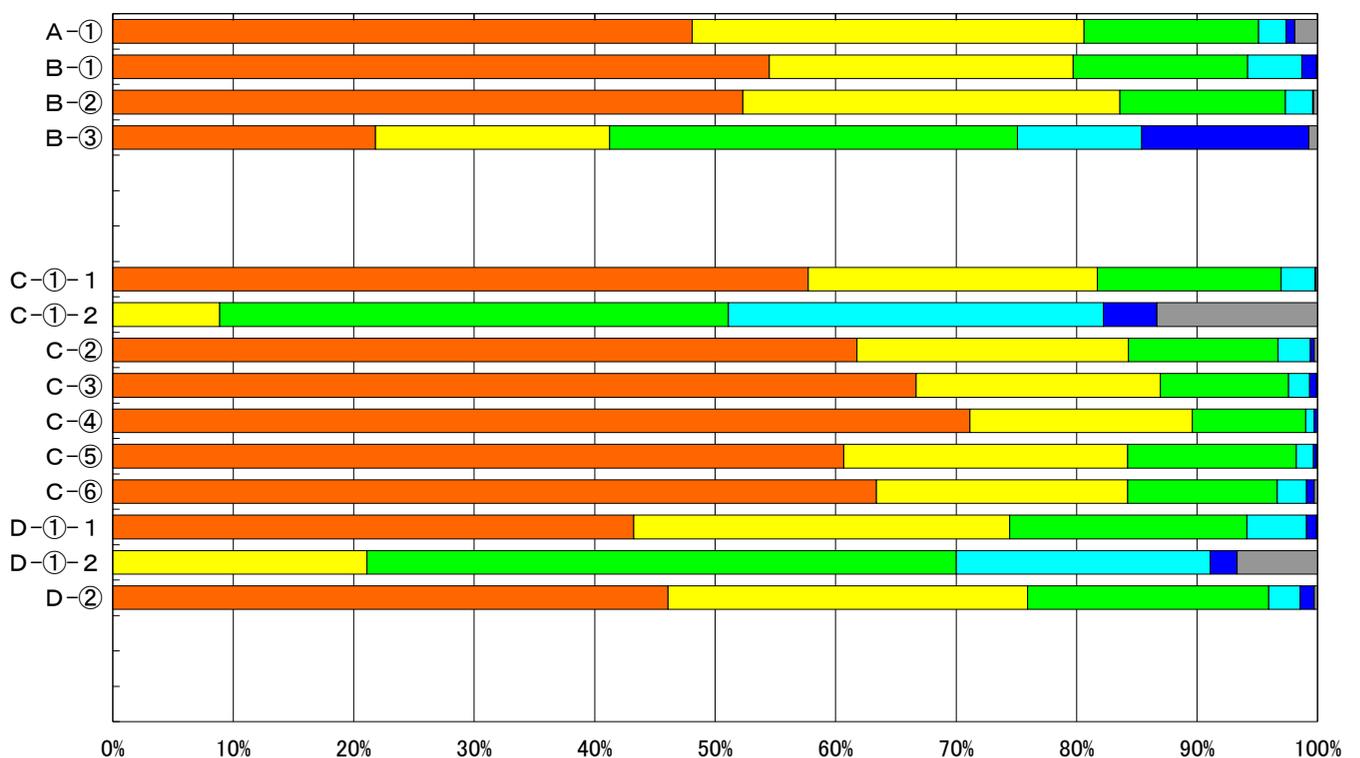
入学年度	回答数	受講者数	回収率
19生	605	---	---
18生	391	---	---
17生	179	---	---
16生以前	0	---	---
その他	2	---	---
不明	372	---	---
合計	1,549	1,725	90 %

質問別回答集計表(人数と平均値)

	5 とても 思う	4 やや 思う	3 普通	2 あまり 思わな い	1 そうは 思わな い	未答	平均	全体平均
A-① この授業は、全体として満足であった。	745	504	224	36	11	29	4.3	4.3
B-① この授業には、休まず出席していた。	844	391	224	70	19	1	4.3	4.3
B-② この授業には、真剣な態度で受講した。	810	485	213	35	1	5	4.3	4.4
B-③ この授業の登録前または履修中に、シラバスを活用した。	338	301	524	160	215	11	3.3	3.4
C-①-1 授業の進み具合は適切であった。	894	372	236	44	1	2	4.4	4.3
C-①-2 そうは思わない、あまり思わないの場合		4 早すぎる	3 少し早い	2 少し遅い	1 遅すぎる	未答		
		4	19	14	2	6		
C-② 教員はわかり易く説明していた。	957	349	192	42	5	4	4.4	4.4
C-③ 授業の開始時間、終了時間はきちんと守られていた。	1,033	314	165	27	9	1	4.5	4.6
C-④ 教員は授業に熱意を持って取り組んでいた。	1,102	286	146	11	4	0	4.6	4.6
C-⑤ 授業中の私語には適切な処置がとられていた。	940	365	217	22	4	1	4.4	4.4
C-⑥ 学生が積極的に授業に参加できるよう配慮されていた。	982	323	192	38	10	4	4.4	4.4
D-①-1 授業のレベルは、自分にとって適切であった。	670	483	305	77	13	1	4.1	4.2
D-①-2 そうは思わない、あまり思わないの場合		4 高すぎる	3 少し高い	2 少し低い	1 低すぎる	未答		
		19	44	19	2	6		
D-② この授業に大変興味を持てた。	714	462	310	41	18	4	4.2	4.2
E-① 教員独自の設問								
E-② 教員独自の設問								
E-③ 教員独自の設問								
E-④ 教員独自の設問								
E-⑤ 教員独自の設問								

〈評価帯グラフ〉

■とても思う(5) ■やや思う(4) ■普通(3) ■あまり思わない(2) ■そうは思わない(1) ■未答



授業科目別評価結果

(教員コード) 教員名			
科目コード		曜日	
授業コード		講時	
授業科目名	(学部) 13 世界教養学科		

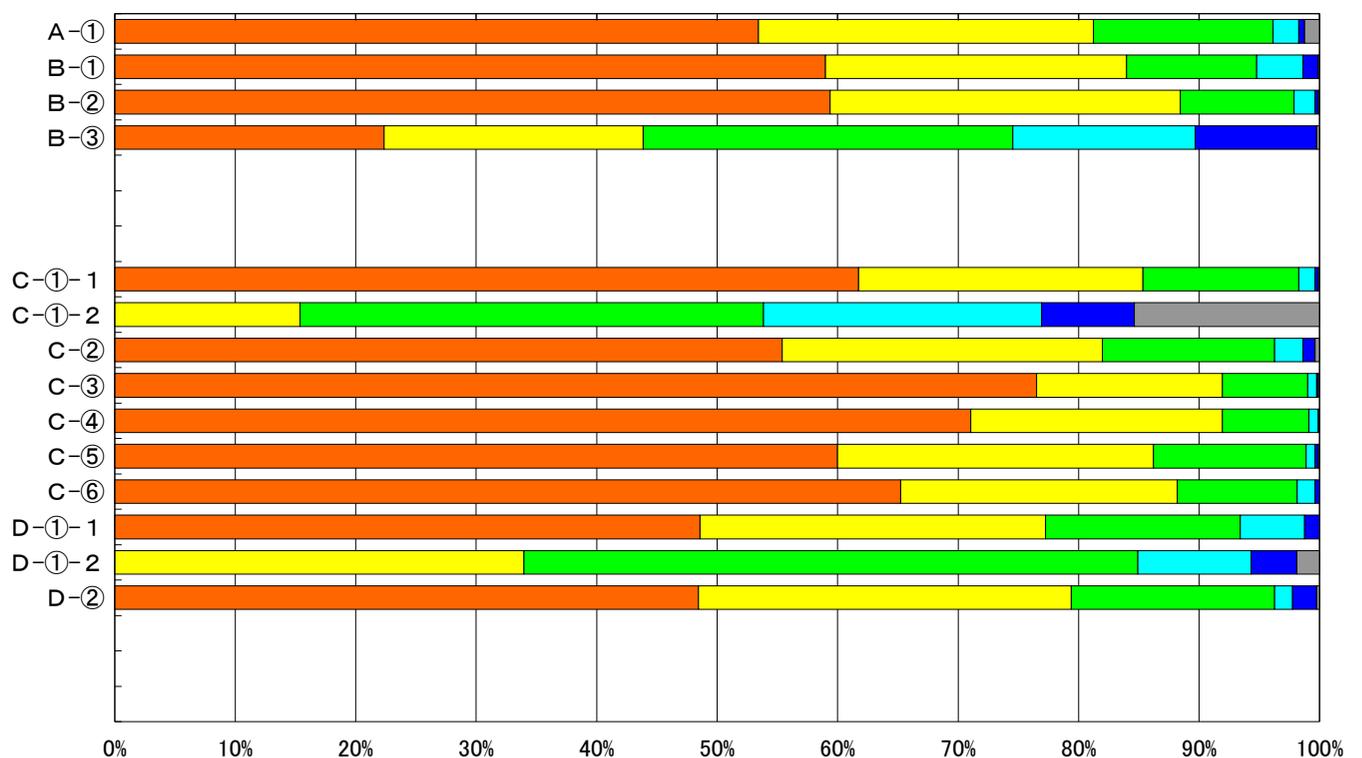
入学年度	回答数	受講者数	回収率
19生	601	---	---
18生	0	---	---
17生	2	---	---
16生以前	2	---	---
その他	0	---	---
不明	200	---	---
合計	805	871	92 %

質問別回答集計表(人数と平均値)

	5 とても そう 思う	4 やや そう 思う	3 普通	2 あまり そう 思わ ない	1 そう は 思 わ な い	未答	平均	全体平均
A-① この授業は、全体として満足であった。	430	224	120	17	4	10	4.3	4.3
B-① この授業には、休まず出席していた。	475	201	87	31	10	1	4.4	4.3
B-② この授業には、真剣な態度で受講した。	478	234	76	14	2	1	4.5	4.4
B-③ この授業の登録前または履修中に、シラバスを活用した。	180	173	247	122	81	2	3.3	3.4
C-①-1 授業の進み具合は適切であった。	497	190	104	11	2	1	4.5	4.3
C-①-2 そうは思わない、あまりそう思わないの場合		4 早すぎる 2	3 少し早い 5	2 少し遅い 3	1 遅すぎる 1	未答 2		
C-② 教員はわかり易く説明していた。	446	214	115	19	8	3	4.3	4.4
C-③ 授業の開始時間、終了時間はきちんと守られていた。	616	124	57	6	1	1	4.7	4.6
C-④ 教員は授業に熱意を持って取り組んでいた。	572	168	58	6	1	0	4.6	4.6
C-⑤ 授業中の私語には適切な処置がとられていた。	483	211	102	6	2	1	4.5	4.4
C-⑥ 学生が積極的に授業に参加できるよう配慮されていた。	525	185	80	12	3	0	4.5	4.4
D-①-1 授業のレベルは、自分にとって適切であった。	391	231	130	43	10	0	4.2	4.2
D-①-2 そうは思わない、あまりそう思わないの場合		4 高すぎる 18	3 少し高い 27	2 少し低い 5	1 低すぎる 2	未答 1		
D-② この授業に大変興味を持てた。	390	249	136	12	16	2	4.2	4.2
E-① 教員独自の設問								
E-② 教員独自の設問								
E-③ 教員独自の設問								
E-④ 教員独自の設問								
E-⑤ 教員独自の設問								

〈評価帯グラフ〉

■とてもそう思う(5) ■ややそう思う(4) ■普通(3) ■あまりそう思わない(2) ■そうは思わない(1) ■未答



授業科目別評価結果

(教員コード) 教員名			
科目コード		曜日	
授業コード		講時	
授業科目名	(学部) 14 国際日本学科		

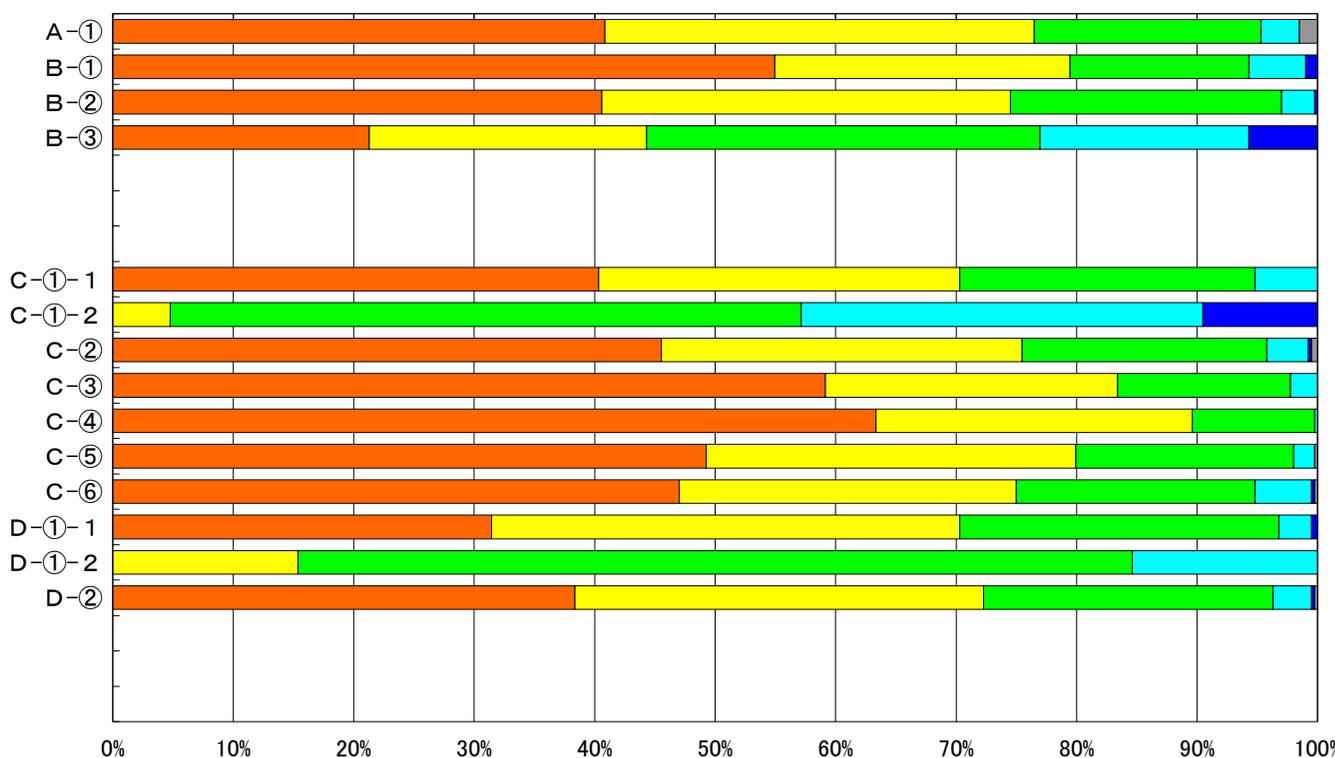
入学年度	回答数	受講者数	回収率
19生	295	---	---
18生	2	---	---
17生	6	---	---
16生以前	8	---	---
その他	3	---	---
不明	90	---	---
合計	404	472	86 %

質問別回答集計表(人数と平均値)

	5 とても 思う	4 やや 思う	3 普通	2 あまり 思わ ない	1 そう は 思 わ な い	未答	平均	全体平均
A-① この授業は、全体として満足であった。	165	144	76	13	0	6	4.2	4.3
B-① この授業には、休まず出席していた。	222	99	60	19	4	0	4.3	4.3
B-② この授業には、真剣な態度で受講した。	164	137	91	11	1	0	4.1	4.4
B-③ この授業の登録前または履修中に、シラバスを活用した。	86	93	132	70	23	0	3.4	3.4
C-①-1 授業の進み具合は適切であった。	163	121	99	21	0	0	4.1	4.3
C-①-2 そうは思わない、あまりそう思わないの場合		4 早すぎる 1	3 少し早い 11	2 少し遅い 7	1 遅すぎる 2	未答 0		
C-② 教員はわかり易く説明していた。	184	121	82	14	1	2	4.2	4.4
C-③ 授業の開始時間、終了時間はきちんと守られていた。	239	98	58	9	0	0	4.4	4.6
C-④ 教員は授業に熱意を持って取り組んでいた。	256	106	41	1	0	0	4.5	4.6
C-⑤ 授業中の私語には適切な処置がとられていた。	199	124	73	7	0	1	4.3	4.4
C-⑥ 学生が積極的に授業に参加できるよう配慮されていた。	190	113	80	19	1	1	4.2	4.4
D-①-1 授業のレベルは、自分にとって適切であった。	127	157	107	11	2	0	4.0	4.2
D-①-2 そうは思わない、あまりそう思わないの場合		4 高すぎる 2	3 少し高い 9	2 少し低い 2	1 低すぎる 0	未答 0		
D-② この授業に大変興味を持てた。	155	137	97	13	1	1	4.1	4.2
E-① 教員独自の設問								
E-② 教員独自の設問								
E-③ 教員独自の設問								
E-④ 教員独自の設問								
E-⑤ 教員独自の設問								

〈評価帯グラフ〉

■とても思う(5) ■やや思う(4) ■普通(3) ■あまり思わない(2) ■そうは思わない(1) ■未答



授業科目別評価結果

(教員コード) 教員名			
科目コード		曜日	
授業コード		講時	
授業科目名	(学部) 15 学部間合同		

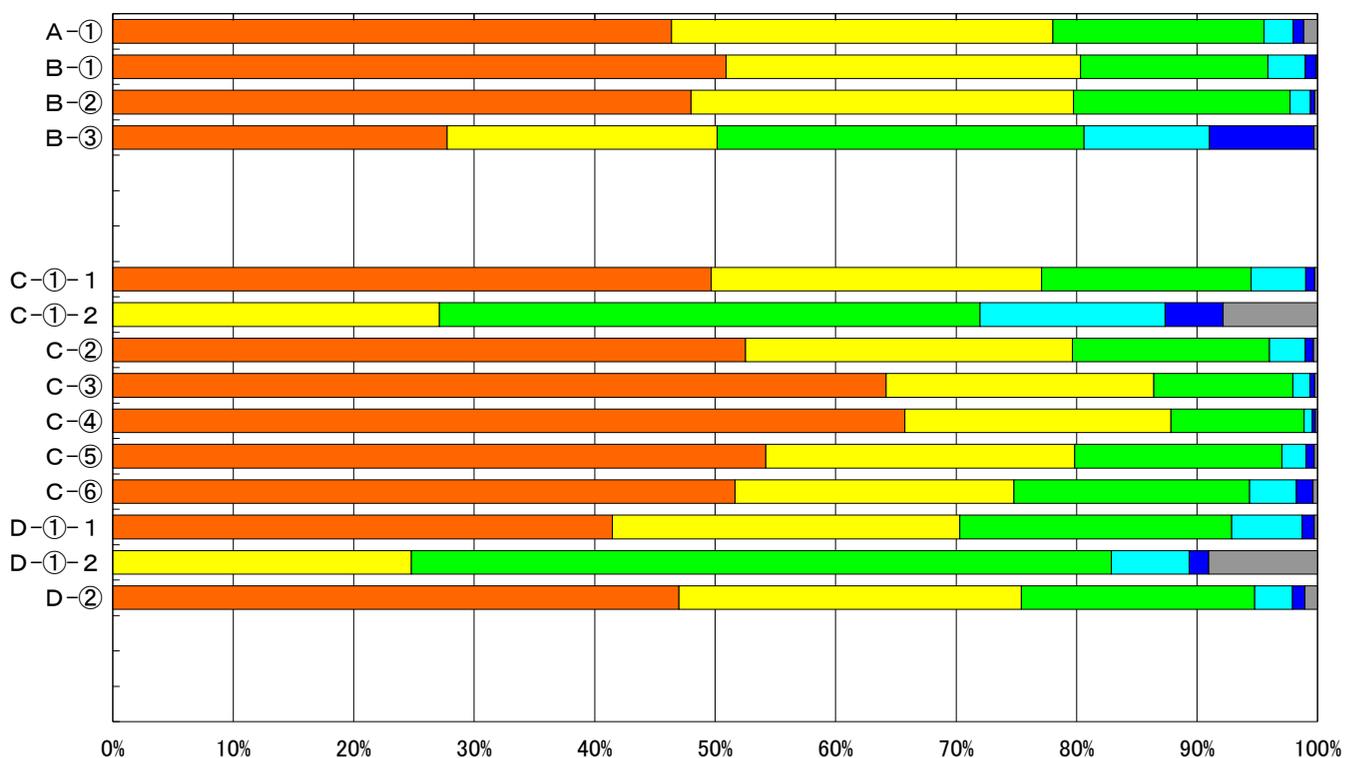
入学年度	回答数	受講者数	回収率
19生	1,429	---	---
18生	1,851	---	---
17生	1,260	---	---
16生以前	558	---	---
その他	1	---	---
不明	1,193	---	---
合計	6,292	7,154	88 %

質問別回答集計表(人数と平均値)

	5 とても 思う	4 やや 思う	3 普通	2 あまり 思わな	1 そうは 思わない	未答	平均	全体平均
A-① この授業は、全体として満足であった。	2,918	1,992	1,103	153	55	71	4.2	4.3
B-① この授業には、休まず出席していた。	3,204	1,851	978	195	57	7	4.3	4.3
B-② この授業には、真剣な態度で受講した。	3,019	1,998	1,131	107	22	15	4.3	4.4
B-③ この授業の登録前または履修中に、シラバスを活用した。	1,746	1,411	1,915	655	546	19	3.5	3.4
C-①-1 授業の進み具合は適切であった。	3,125	1,726	1,094	285	47	15	4.2	4.3
C-①-2 そうは思わない、あまりそう思わないの場合		4 早すぎる	3 少し早い	2 少し遅い	1 遅すぎる	未答		
		90	149	51	16	26		
C-② 教員はわかり易く説明していた。	3,304	1,708	1,030	187	41	22	4.3	4.4
C-③ 授業の開始時間、終了時間はきちんと守られていた。	4,039	1,398	727	89	24	15	4.5	4.6
C-④ 教員は授業に熱意を持って取り組んでいた。	4,136	1,390	696	42	18	10	4.5	4.6
C-⑤ 授業中の私語には適切な処置がとられていた。	3,411	1,613	1,083	126	43	16	4.3	4.4
C-⑥ 学生が積極的に授業に参加できるよう配慮されていた。	3,249	1,458	1,231	244	87	23	4.2	4.4
D-①-1 授業のレベルは、自分にとって適切であった。	2,608	1,816	1,419	368	64	17	4.0	4.2
D-①-2 そうは思わない、あまりそう思わないの場合		4 高すぎる	3 少し高い	2 少し低い	1 低すぎる	未答		
		107	251	28	7	39		
D-② この授業に大変興味を持てた。	2,956	1,790	1,218	198	64	66	4.2	4.2
E-① 教員独自の設問								
E-② 教員独自の設問								
E-③ 教員独自の設問								
E-④ 教員独自の設問								
E-⑤ 教員独自の設問								

〈評価帯グラフ〉

■とても思う(5) ■やや思う(4) ■普通(3) ■あまり思わない(2) ■そうは思わない(1) ■未答



授業科目別評価結果

(教員コード) 教員名			
科目コード		曜日	
授業コード		講時	
授業科目名	(学部) 16 教職科目		

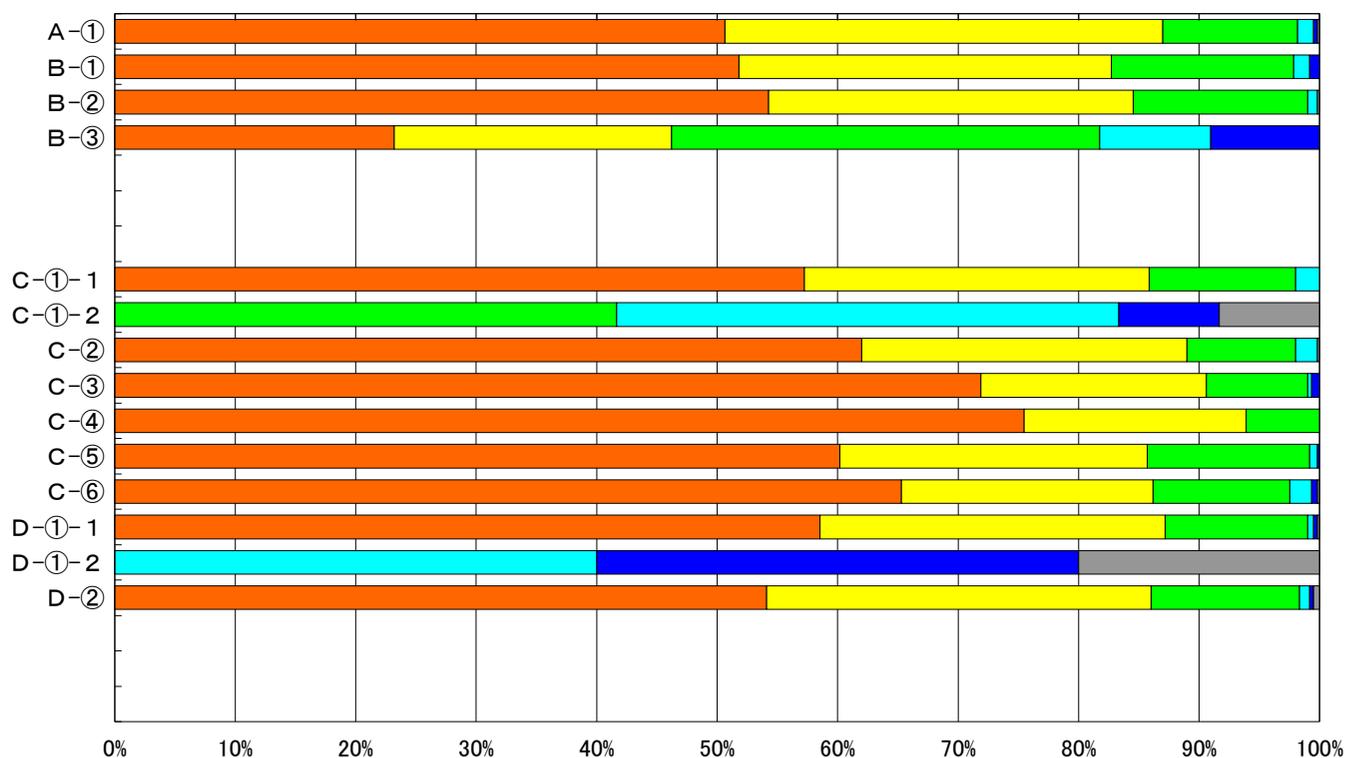
入学年度	回答数	受講者数	回収率
19生	124	---	---
18生	123	---	---
17生	141	---	---
16生以前	128	---	---
その他	1	---	---
不明	91	---	---
合計	608	651	93%

質問別回答集計表(人数と平均値)

	5 とても 思う	4 やや 思う	3 普通	2 あまり 思わ ない	1 そう は 思わ ない	未答	平均	全体平均
A-① この授業は、全体として満足であった。	308	221	68	8	2	1	4.4	4.3
B-① この授業には、休まず出席していた。	315	188	92	8	5	0	4.3	4.3
B-② この授業には、真剣な態度で受講した。	330	184	88	5	0	1	4.4	4.4
B-③ この授業の登録前または履修中に、シラバスを活用した。	141	140	216	56	55	0	3.4	3.4
C-①-1 授業の進み具合は適切であった。	348	174	74	12	0	0	4.4	4.3
C-①-2 そうは思わない、あまりそう思わないの場合		4 早すぎる 0	3 少し早い 5	2 少し遅い 5	1 遅すぎる 1	未答 1		
C-② 教員はわかり易く説明していた。	377	164	55	11	0	1	4.5	4.4
C-③ 授業の開始時間、終了時間はきちんと守られていた。	437	114	51	2	4	0	4.6	4.6
C-④ 教員は授業に熱意を持って取り組んでいた。	459	112	37	0	0	0	4.7	4.6
C-⑤ 授業中の私語には適切な処置がとられていた。	366	155	82	4	1	0	4.4	4.4
C-⑥ 学生が積極的に授業に参加できるよう配慮されていた。	397	127	69	11	3	1	4.5	4.4
D-①-1 授業のレベルは、自分にとって適切であった。	356	174	72	3	2	1	4.4	4.2
D-①-2 そうは思わない、あまりそう思わないの場合		4 高すぎる 0	3 少し高い 0	2 少し低い 2	1 低すぎる 2	未答 1		
D-② この授業に大変興味を持てた。	329	194	75	5	2	3	4.4	4.2
E-① 教員独自の設問								
E-② 教員独自の設問								
E-③ 教員独自の設問								
E-④ 教員独自の設問								
E-⑤ 教員独自の設問								

〈評価帯グラフ〉

■とても思う(5) ■やや思う(4) ■普通(3) ■あまり思わない(2) ■そうは思わない(1) ■未答



授業科目別評価結果

(教員コード) 教員名			
科目コード		曜日	
授業コード		講時	
授業科目名	(大学院) 17 大学院		

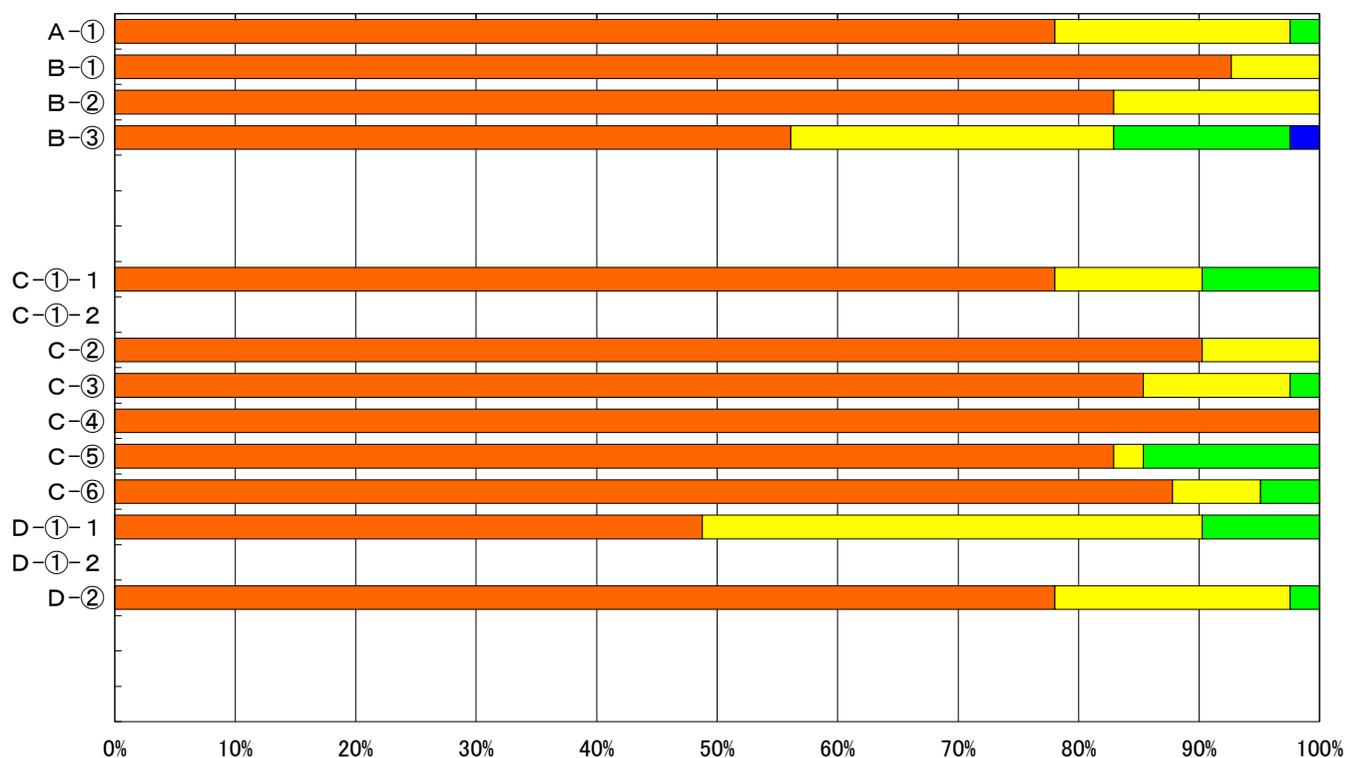
入学年度	回答数	受講者数	回収率
19生	5	---	---
18生	6	---	---
17生	1	---	---
16生以前	2	---	---
その他	22	---	---
不明	5	---	---
合計	41	43	95 %

質問別回答集計表(人数と平均値)

	5 とても 思う	4 やや 思う	3 普通	2 あまり 思わな	1 そうは 思わない	未答	平均	全体平均
A-① この授業は、全体として満足であった。	32	8	1	0	0	0	4.8	4.3
B-① この授業には、休まず出席していた。	38	3	0	0	0	0	4.9	4.3
B-② この授業には、真剣な態度で受講した。	34	7	0	0	0	0	4.8	4.4
B-③ この授業の登録前または履修中に、シラバスを活用した。	23	11	6	0	1	0	4.3	3.4
C-①-1 授業の進み具合は適切であった。	32	5	4	0	0	0	4.7	4.3
C-①-2 そうは思わない、あまりそう思わないの場合		4 早すぎる	3 少し早い	2 少し遅い	1 遅すぎる	未答		
C-② 教員はわかり易く説明していた。	37	4	0	0	0	0	4.9	4.4
C-③ 授業の開始時間、終了時間はきちんと守られていた。	35	5	1	0	0	0	4.8	4.6
C-④ 教員は授業に熱意を持って取り組んでいた。	41	0	0	0	0	0	5.0	4.6
C-⑤ 授業中の私語には適切な処置がとられていた。	34	1	6	0	0	0	4.7	4.4
C-⑥ 学生が積極的に授業に参加できるよう配慮されていた。	36	3	2	0	0	0	4.8	4.4
D-①-1 授業のレベルは、自分にとって適切であった。	20	17	4	0	0	0	4.4	4.2
D-①-2 そうは思わない、あまりそう思わないの場合		4 高すぎる	3 少し高い	2 少し低い	1 低すぎる	未答		
D-② この授業に大変興味を持てた。	32	8	1	0	0	0	4.8	4.2
E-① 教員独自の設問								
E-② 教員独自の設問								
E-③ 教員独自の設問								
E-④ 教員独自の設問								
E-⑤ 教員独自の設問								

〈評価帯グラフ〉

■とてもそう思う(5) ■ややそう思う(4) ■普通(3) ■あまりそう思わない(2) ■そうは思わない(1) ■未答



授業科目別評価結果

(教員コード) 教員名			
科目コード		曜日	
授業コード		講時	
授業科目名	(別科) 18 別科		

入学年度	回答数	受講者数	回収率
19生	29	---	---
18生	19	---	---
17生	9	---	---
16生以前	11	---	---
その他	258	---	---
不明	207	---	---
合計	533	602	89 %

質問別回答集計表(人数と平均値)

	5 とても そう 思う	4 やや そう 思う	3 普通	2 あまり そう 思わ ない	1 そう は 思 わ な い	未答	平均	全体平均
A-① この授業は、全体として満足であった。	259	162	68	9	3	32	4.3	4.3
B-① この授業には、休まず出席していた。	191	220	82	15	14	11	4.1	4.3
B-② この授業には、真剣な態度で受講した。	287	163	61	8	1	13	4.4	4.4
B-③ この授業の登録前または履修中に、シラバスを活用した。	257	119	97	25	20	15	4.1	3.4
C-①-1 授業の進み具合は適切であった。	268	145	70	34	4	12	4.2	4.3
C-①-2 そうは思わない、あまりそう思わないの場合		4 早すぎる	3 少し早い	2 少し遅い	1 遅すぎる	未答		
		4	7	16	5	6		
C-② 教員はわかり易く説明していた。	306	139	44	13	2	29	4.5	4.4
C-③ 授業の開始時間、終了時間はきちんと守られていた。	410	74	19	0	1	29	4.8	4.6
C-④ 教員は授業に熱意を持って取り組んでいた。	399	82	19	5	0	28	4.7	4.6
C-⑤ 授業中の私語には適切な処置がとられていた。	310	104	60	13	1	45	4.5	4.4
C-⑥ 学生が積極的に授業に参加できるよう配慮されていた。	339	101	47	13	4	29	4.5	4.4
D-①-1 授業のレベルは、自分にとって適切であった。	259	133	78	38	12	13	4.1	4.2
D-①-2 そうは思わない、あまりそう思わないの場合		4 高すぎる	3 少し高い	2 少し低い	1 低すぎる	未答		
		1	7	13	21	8		
D-② この授業に大変興味を持てた。	297	128	55	15	8	30	4.4	4.2
E-① 教員独自の設問								
E-② 教員独自の設問								
E-③ 教員独自の設問								
E-④ 教員独自の設問								
E-⑤ 教員独自の設問								

〈評価帯グラフ〉

■とてもそう思う(5) ■ややそう思う(4) ■普通(3) ■あまりそう思わない(2) ■そうは思わない(1) ■未答

